

# あけぼの杉

藤田学園同窓会

住 所 豊明市沓掛町田楽  
ヶ窪1番地98

発行人 藤田学園同窓会  
機関誌委員会

発行日 平成24年12月1日



右建物が建設予定の大学病院新病棟完成図



## 目次

P. 1	藤田学園同窓会会長挨拶	P. 17~18	学会を開催して
P. 2	学校法人藤田学園理事長ご挨拶	P. 19~21	同窓会報告
P. 3	藤田保健衛生大学学長ご挨拶	P. 22	学園祭
P. 4	藤田保健衛生大学病院長ご挨拶	P. 23	いこいの広場コンサート
P. 5	藤田保健衛生大学医学部長ご挨拶		礼状紹介
	平成23年度国家試験合格率	P. 24~25	同窓会各部会からのお知らせ
P. 6~11	ご就任・新教授	P. 26	同窓会からのお知らせ
P. 11~14	恩師からのお便り	P. 27~30	同窓会総会報告
P. 14~16	同窓会員の活躍紹介		



藤田学園  
同窓会 会長  
近松 均

## 「藤田らしさ」とは いま改めて思う――

同窓生の皆さまにはいかがお過ごしでしょうか。

今年はロンドンで、同地としては64年ぶりであり近代オリンピック史上3回目となる大会が開催されました。日本の選手が期待以上のメダルを獲得したこともあって、連夜のテレビ観戦で寝不足になられた方もいらっしゃるでしょう。我が国には、戦争の影響のため64年前の大会への参加が許されなかった不幸な歴史がありますので、今回の平和の祭典に接し日本国民として感慨深いものがありました。

さて、日本人はプレッシャーに弱く、オリンピックなどの大舞台では力を十分発揮できないとよく言われますが、これは繊細かつ謙虚であり、勤勉で組織への帰属意識の高い長所の裏返しだと思います。いわゆる「日本人らしさ」ということでしょうか。

つい先日のことですが、私の尊敬する先達にあたる方との会話の中で、いったい「藤田らしさ」とは何ですか？ という質問を受けて答えに窮したことがありました。

一言では答えることの出来ない大変難しい質問です。

そこで、この機会に少し時間をかけて、私なりに「藤田らしさ」について、いろいろ考えてみることにしました。

皆さまがご存じのように、藤田学園の建学の理念は“獨創一理”です。しかし、これをオリジナリティーあふれる真理の探究と解釈すれば、校是ではないにせよ似たようなポリシーを奨励している教育機関は他にもあるでしょうし、藤田学園だけの唯

一無二の理念とは少し異なるように思います。

アセンブリ精神についても、医師のみ主役の古典的な医療が一般的であった時代にもかかわらず、すでにそれを提唱していた先見の明については誇らしく思いますが、現代医療においては職種の枠組みを越えたチーム医療は不可欠であり、もはや私たち藤田学園出身者だけが専有するスピリッツではありません。

一方、“人生究極の事業は教育なり”と、藤田啓介総長先生の遺されたその言葉にこそ、「藤田らしさ」のエッセンスが内包されていると、私は考えます。

学園運営に追われる繁忙の身にもかかわらず、自ら教壇に立ち、また時には研究指導や課外授業にと、学生や後進と接する時間をなるべく多く創るよう終始努力されたという、総長先生が身をもって示された熾烈にして温情ある“師弟同行”は、藤田学園創立以来すべての教職員の規範となるものでした。

思い起こせば、このような“師弟同行”の考え方は、看護専門学校、医学技術専門学院、短期大学、衛生学部においては古くから浸透していました。また、総長先生の意向が比較的反映され難かった医学部においても、昭和63年には指導講師会の発足という形で“師弟同行”が具現化されています。

指導講師会とは、医学の道の後進である学生たちを全人的に教育するために、きめ細かな指導を行うことを目的として、藤田学園出身者として初めて母校の医学部教員に採用された7名の同窓生により結成された任意団体です。ただ、講師ともなれば当然のことながら学生指導以外の仕事も一人前以上に課せられていますので、指導講師が学生たちと接するのは勤務開始時刻前の早朝や、あるいは通常の仕事が終了した夕方過ぎから深夜にかけての時間帯となり、指導講師会のメンバーは後進教育のために相当の自己犠牲を強いられたことと思われます。

しかし、師弟がお互いの人間性や学力の向上という共通の目的に向かって一緒に努力する時間を共有するようになった結果、両者の間に固い信頼関係が構築されていったことは

想像に難くありません。

わずか7名からスタートした指導講師会も、出身大学や専門科目にとらわれず若手や中堅の教員が参加して70名を超える大所帯となった最盛期を経て、一定の役割を果たしたのちに、平成10年代半ばに自然解散したと聞いていますが、このような師と弟子の立ち位置が近く、弱者を切り捨てることを了とししない思いやりのある教育姿勢は、その後も今日まで順送りのような形で若い人たちに脈々と引き継がれています。

結論として、“師弟同行”の考え方がベースとなったこのような教育姿勢こそが、藤田学園ならではの伝統的学風であり、言うなれば同窓生として最も「藤田らしさ」を感じることのできる良い点だと思います。

教育、つまり人を育てることは生産的な事業であると同時に、一方では多くの労力と時間を費やし、実に無駄の多い仕事でもあります。優れた才能を持っていてもそれを開花させるために他人より時間を必要とする学生もいます。ダイヤの原石でありながら、毎日お仕着せの授業を受けるだけの違和感から学習意欲をなくしてしまっている学生もいます。

このような学生たちが、費用対効果、時間対効果、あるいは収支バランスといった、あたかも「モノづくり」の時に用いるような指標が重視されるあまり、きめの細かい教育や指導を受けられなくなることはないよう、今後も私たちの藤田学園らしい良き学風が堅持されることを、総長先生没後17年の月日が流れたいま改めて心より願う次第です。

最後になりましたが、同窓生の皆さまにおかれましては時節柄どうぞご自愛いただき、益々ご活躍くださいますようお願いいたします。

(平成24年10月16日 記)







学校法人藤田学園  
理事長  
小野雄一郎

— 創立50周年記念事業の成功を —

## 藤田学園の今と未来

藤田学園同窓会の皆様には、日頃より学園に対して多くの御支援を賜り、御礼を申し上げます。

昨年4月発足の学園新執行部は、半世紀近くを歩む中で築いてきた本学園の良き伝統の継承発展とともに、学園運営上の立ち後れの克服と、計画性と透明性のあるガバナンスの確立をめざして取り組んでまいりました。

そして、昨年8月の理事会において、5～10年先を展望した中期経営計画に相当する「中期経営努力目標と達成計画」を決定し、計画の着実な実施をめざして、収支改善委員会を設置して全学的検討を重ねてまい

りました。その一方で、人材の獲得と経営監視体制の強化、資金運用資産の整理などを進めました。

以上の取り組みの結果、平成23年度に医療科学部5号館の耐震工事、大学病院臨床研究センター設置、大学病院への新電子カルテシステム導入などを実現し、本年度はダヴィンチ低侵襲手術トレーニングセンター開所や医学部1号館の耐震化着工に至りました。この9月には低侵襲画像診断・治療センター（放射線センター）の完成引渡・清祓式を経て、竣工式を大々的に挙行政致しました。

教育については、本年度から医学部の成績優秀者奨学金制度や医学部新入生向け銀行ローン制度がスタートし、また大学院保健学研究科に急性期・周術期分野及び臨床工学と医療経営情報学の各領域が加わりました。本年の国家試験成績は、医療科学部、看護専門学校が従来通りに全国トップクラスを維持するとともに、医学部新卒者が昨年の99%に続き今回も98%と全国のトップ10入りを果たしました。本年の入学試験では、各学部・学校の総志願者数が6,000名を超えて史上最高に達しました。

診療については、昨年度のDPCの実績に関する藤田保健衛生大学病院

のMDC（主要診断群）件数が全国80大学病院中、第3位に入りました。トップ15を首都圏や関東の大学病院がほぼ独占する中での快挙です。

このように、学園の社会的使命である教育、診療等の取り組みが教職員の献身的な努力によって順調に成果を上げるとともに、停滞していた施設の整備も厳しい収支改善の取り組みを背景に着実に前進しつつあります。

しかし、本学園が今日の急速に発展する医学医療の社会的要請に応えていくためには、来年3月着工予定の大学病院新棟、さらには医療科学部の生涯教育研修センター2号館の建設をはじめとする施設整備事業の一層の推進が必要不可欠となっております。当然、多額の資金調達を含むさらなる経営努力が求められています。

この度、創立50周年記念事業第4期目の寄付金募集を開始致しました。この事業では、上記の新病棟建設等を含む施設整備推進とともに、平成26年10月の記念式典と50年史の編纂を計画しております。

同窓会の皆様には、創立50周年記念事業の成功に向け、ご寄付を含め絶大なるご支援のほど、是非とも宜しくお願い申し上げます。



来年3月着工予定の大学病院新病棟全景





藤田保健衛生大学  
学長  
黒澤 良和

## 藤田学園保健衛生大学 第三期四半世紀へ 向けて

東京オリンピックが開催された1964年に設立された藤田学園は、まもなく創設50周年を迎えようとしています。藤田学園がこの50年の間いかなる目標を掲げ、どのような理念のもとに運営されてきたか共に考え、今後のあるべき姿を描く良い機会だと感じます。私立大学は創立者が“建学の理念”を掲げ、それが年を経る中で伝統として根付き、学園関係者の間で共有されて、初めて大きな発展を遂げることが可能になります。今回、小野理事長から“藤田学園50年史（通史）編纂”の提案があり、今まで辿って来た道を紐解く中で、開学25年にあたり創設者藤田啓介総長が何を行い、何を語ったか知る機会がありました。ここでそれを紹介し、皆様と共に前へ進む心の支えにいたしたく存じます。

開学25周年記念事業として建設された医療スタッフ館の屋上に高さ56m（地上94m）のアセンブリ・タワーが建っています。＜このタワーは京都にある東寺、五重の塔に隣接する堂内の一燭台を模して構築され、「藤田学園教育の根本“ゼロの発見と無限大の発想”のアセンブリ（全員集合）教育を象徴するモニュメントであり、未来にわたって藤田学園が存続する限り、母校のシンボルである。」更にこのタワーを守る祈りを込めて、大日如来像、宝冠、華鬘が寄進された。開学25年記念式典では、アセンブリ・タワーの模型の除幕式、ならびに華鬘奉納・アセンブリ・タワー、宝冠開眼法要の儀が、盛大かつ厳かに執り行われた。＞私は本学に27年以上在職していますが、この記事に接し、なんと多くのことを知らぬまま過ごしてきたのかと今更のように驚きました。＜理事

長先生の今は亡きご尊父の守り本尊である大日如来が奉安され、その光背の後ろにある長さ150ミリメートルと120ミリメートルの26本の光条が、宝冠と仏像を一層尊厳なものにしている。＞この宝冠の意味を知りたくて、そのもとになった東大寺法華堂の不空罽索観音菩薩を求めて本年6月に奈良へ出かけました。法華堂は修理中で閉鎖されていましたが、中に置かれた仏像は昨年秋に新しくできた東大寺ミュージアムに安置されているとのことでした。そこでは、通常は光背を背負い頭に宝冠を頂いて須弥壇の上に立つ観音菩薩像が、光背も宝冠も外した状態で置かれており、なんと部屋の真ん中に宝冠が燦然と光り輝いているではありませんか。あまりの美しさに「本像が頭上にいただく豪華な宝冠は、技術的にも意匠的にも奈良朝工芸の最高傑作」と言われる理由がわかると同時に、なぜ藤田先生がそれを模して学園のお守りとしたかも。

開学25周年記念式典では藤田先生は文語体で式辞を述べられています。＜有為転変の習い、一期の浮沈は、四半世紀一節初頭ごとに、一校の長が思い定めし覚悟十体のいかななり。我、何れの諸縁にかな定かならざる因果の道に誘われて、桶狭間を死活の地と定められ、命ありてなお務めを果さざれば帰るに道なし。これ我三十有三年秋の妄念の間、断腸の思いなり。惟るに、人生最も苦しき処、狂気の沙汰かと断ぜられ、笑止千万と嘲るものあれども、一層苦行の千尋の谷、万丈の山を越えんと覚悟すれば、すなわち十分自在、十分達観。案じ定めて、われ三十有九年の秋、惑わずこの地に健康科学の総合大学の礎石となすべく学校法人藤田学園を開く。これ本心なり、不退転の決意なり。＞

この文章に始まる式辞は、藤田先生の最初の25年にかけての熱意、続く25年への熱い思いが切々と伝わってきます。＜これ世界に冠たる藤田保健衛生大学を我三世の命として、ご交誼を結びし方々の山なす久年の御恩



平成元年、藤田学園が開学25周年に建立したアセンブリ・タワーには、大日如来、宝冠、華鬘（けまん）が安置されています。藤田啓介総長が、激動の世界に衆生済度し、世の終わりの時に有情を天上に導く無量光になって守り続けてくれることを願って安置されたものである。



に報効を遂げんためなり。＞と結ばれます。

藤田先生は、33歳にして大学創設を思い立ち、39歳に開学して、64歳の時この一文をしたため、その6年後に逝去されたこととなります。これから皆様の協力を得ながら藤田先生の足跡を辿り、先生亡き後を含めた藤田学園50年の歴史を忠実に描き出す作業を開始しましょう。藤田啓介総長という偉大な創設者を持つ誇りを胸に秘めて、藤田学園保健衛生大学の第三期四半世紀に於けるより大きな発展へ向けて、心を一つにしようではありませんか。





## 藤田保健衛生 大学病院の 現状と将来

藤田保健衛生大学病院  
病院長

星長 清隆

藤田学園同窓会の皆様におかれましては、日本全国の様々な分野でご活躍のことと存じます。私は平成21年2月より病院長を拝命して以来、藤田啓介先生が創られた病院理念、「我ら、弱き人々への無限の同情心もて、片時も自己に驕ることなく医を行わん。」を常に拠り所としながら、当大学病院に命を預けて下さった患者様ならびにご家族から充分ご満足頂ける、最新で最良の医療を提供すべく、医師達や多職種の医療スタッフならびに事務系職員の方々とともに懸命に頑張っております。ここでは最近の藤田保健衛生大学病院の出来事ならびに近未来計画についてご報告させていただきます。

まず、以前から通院して頂いている患者様や出入り業者さんたちから最近よく言われますことは、病院全体が明るくなった、ということです。

2011年3月11日の東日本大震災以来、病院としては全職員に節電をお願いしており、消費電力は明らかに減少しているはずですが、本年春から院内2ヶ所に喫茶店（ドトールコーヒー）とコンビニ（ファミリーマート）が出店したこともあり、病院全体の雰囲気が明るくなった可能性があります。また、院内緑化や院内図書館設置などを積極的に取り組んでいること、新たな取り組みがしばしばメディアでも取り上げられていること、そして、数年来、噂されていた経営破綻の心配が払拭されつつあることも原因かもしれません。

さて、新聞やテレビで何回か報道されましたが、わが国で最初に導入した手術支援ロボット・ダヴィンチSが2009年1月から本院で本格的に稼動しております。前立腺癌に関しては本年4月から保険収載されたこ



ともあり、最近では週に4～5件のロボット支援前立腺全摘術が行われることも稀ではありません。また、まだ保険収載されておきませんが、胃癌や食道癌、肺癌、肝癌、膵臓癌、大腸癌、小径腎癌など多岐に渡る悪性腫瘍の根治手術が、ダヴィンチ支援下に自費診療として行われております。一方、本年4月に新設された「ダヴィンチ低侵襲手術トレーニングセンター」では、ブタを用いた2日間コースの手術訓練が行われております。わが国でダヴィンチSを臨床的に用いるには必須の訓練であるため、全国の外科系医師たちが本学を訪れており、今のところ約2ヶ月の予約待ちの状態です。最近では藤田保健衛生大学はわが国のロボット支援手術のメッカ状態となっております。

また、8月末には念願の低侵襲画像診断・治療センター（放射線センター）が完成し、9月16日には大村愛知県知事や草川参議院議員（公明党副代表）のご臨席の下、竣工式と内覧会が開かれました。地下1階、地上6階の構造で、総床面積は8,622m<sup>2</sup>（2,613坪）、着工から約16ヶ月を要しましたが、基幹災害拠点病院に相応しく完全免震構造です。地下1階は放射線治療フロアでピンポイントの放射線治療ができる最新鋭リニアック治療装置や密封小線源治療装置などを設置し、1階は核医学検査フロアとして最新鋭PET-CT装置（国内初）と2台のSPEC-T-CT装置を設置しました。2階はMRIフロアで、3テスラMRI装置を3台、1.5テスラ装置を1台配備しています。3階は血管造影フロアで、5台のフラットパネル型血管造影装置を備えましたが、うち1台は腹部IVR-CTとして世界初の320列CTを採用しました。4階は

ダヴィンチ低侵襲手術トレーニングセンターCTフロアで、世界初の新型320列面検出器CT2台と最新鋭80列マルチスライスCT2台を設置しました。5階はX線透視フロアで、4台のフラットパネル搭載型X線透視装置を配備しました。世界初の3機種を含め最新鋭の放射線機器が数多く揃っており、国内だけでなく近隣の国々からも多くの医療関係者が見学に訪れる「アジアのショールーム」的存在と自負しております。

次に、私たちが開学50周年事業の最大のイベントとして計画中的の新病棟についてご説明させていただきます。

1973年に開院した本大学病院の1号棟と2号棟は旧建築基準で建設されております。諸般の事情から一時は両病棟とも耐震補強を考えましたが、工事中の入院患者さんの減少による減益額や手術室増室の必要性などともに、職員の頑張りで改善した病院の収益を考慮した結果、約740床の新病棟を現在の外来棟に隣接させて新築し、2号棟のみを耐震化し活用することが最善であると判断致しました。一方、1号棟は低層に減築して耐震化は行わないものの、病棟としては使用せず教育施設として活用するよう計画を進めております。新病棟の建設場所は現在の第一駐車場の土地をあて、新駐車場は旧ヴィラBの跡地に立体化して必要台数を確保致します。新病棟は実施設計段階に入っており、基幹災害拠点病院に相応しく積極的な災害・救急医療を担うことを基本コンセプトとしております。完全免震構造で、地下1階、地上13階、総床面積は52,892m<sup>2</sup>（16,027坪）で、屋上には大型の防災ヘリが発着できるヘリポートを備えます。年内には大手ゼネコン（補助金の関係で5社以上の参加が必須）をお願いして最終見積りを頂き、本学にとって最良条件を提示して頂け



る会社を選定し、平成24年度内の着工を目差しています。予定工期は18ヶ月で学園創設50周年にあたる2014年10月には竣工式を行う予定です。

また、近い将来の高齢化社会に備えて、私たちは医療科学部の先生方や地域医師会の先生方と協力して、地域包括ケア中核センターを本年度中には立ち上げる予定です。これは大学病院で行う急性期医療とこれに続く回復期リハを、地域での介護や在宅医療にスムーズに繋ぐという試みで、大学病院としましては類を見ない画期的なもので、厚生労働省や文部科学省からも充分ご理解が得られており、年内には愛知県の認可を頂いて、「藤田保健衛生大学24時間在宅支援センター」として開設する予定です。また、将来は「在宅支援診療所」「在宅支援施設」などの設立も視野に入れており、これにより藤田保健衛生大学は文字通り医療系総合大学としての地位を確立出来ると考えております。

以上、藤田保健衛生大学病院の現状と近未来の構想を述べさせて頂きましたが、これらの構想が実現し、本大学病院がさらに発展して行くためには、同窓の諸先生方の絶大なるご支援が必要であり、今後とも、ご指導、ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。



完成した低侵襲画像診断・治療センター



藤田保健衛生大学  
医学部長

辻 孝雄

医学部の  
ここ1年半に  
関して

同窓会の皆様には益々ご活躍のことと存じます。

小野現理事長の後任として医学部長に就任し、1年半が過ぎました。そこで、この1年半における医学部の活動状況についてご報告いたします。

まず教育面に関して、現在医学部の在学生総数は681名で、定員の1.06倍となっています。これは、前の失点制度による進級制度に比べて、1教科以上不合格で留年する現進級制度の方が留年生は少なく、優れた結果を出したと考えております。この新制度導入で、学生はよりコツコツと勉強するようになったと思います。また、新制度導入は、新卒者の医師国家試験合格率、一昨年度99%（全国4位）、昨年度98%（全国8位）にも大きく反映していると考えられます。一方で学生の自由が少ない、との意見も出されます。しかし、新入生のご父兄44名と面談し、ほとんどのご父兄は「医師になるのだから、できるだけ厳しくして下さい」と言われており、従って、本校の教育方針は大筋で間違いは無いと考えております。

次に研究面では、総合医科学研究所と医療科学部を含め藤田保健衛生大学の本年度の科学研究費の獲得額は、私立医科大学29校中18位でした。本校の一つ上位は東京慈恵医科大学であることから、本校が研究面でも頑張っている事を示しています。しかし、本校はまだまだ研究分野で発展する可能性があります。今後は如何にすれば研究面で躍進できるか検討し、対策を講じ

たいと考えております。

最後に診療に関してご紹介いたします。まず人材面では、医学部には世界的、全国的に有名な教授陣が居られると評価を受けています。特に、ダビンチによるロボット手術では宇山一朗教授が再三マスコミに取り上げられ、医学部の素晴らしい人材の一端を世間に知らしめております。藤田保健衛生大学の大学名を知らなくても宇山教授の名前を知っている方が大勢おられます。このような人材は本学の宝といえます。一方、施設面では平成24年9月16日に低侵襲画像診断・治療センター（通称：放射線センター）が竣工いたしました。この施設は日本最大の放射線診断と治療を行うセンターです。まさに本学の未来を支え、世間に誇る施設が始動いたしました。藤医会の先生には、是非ご利用いただきたいと思っております。また、平成25年春には750床の新病棟の建設が始まります。新病棟も本学の将来を担う建物で、本学が躍進する礎となると期待されています。

以上、教育、研究、診療に関して、注目すべき事項を列記いたしました。本医学部はどの面においても発展途上にあり、今後一層躍進できる多くの素材を持っていると考えております。是非同窓生の皆様には、医学部発展のためご支援賜りますようお願い致します。

## 平成23年度 国家試験合格率

	本学(合格者数)	全国平均
【医師】		
医学部医学科 新卒	98.0% (99)	93.9%
既卒	44.4% (4)	60.0%
計	93.6% (103)	90.2%
【臨床検査技師】		
医療科学部		
臨床検査学科	98.9% (94)	75.4%
【看護師】		
医療科学部看護学科	100% (104)	90.1%
看護専門学校看護科	100% (45)	90.1%
【保健師】		
医療科学部看護学科	99.1% (105)	86.0%
【診療放射線技師】		
医療科学部放射線学科	100% (55)	83.4%
【理学療法士】		
医療科学部		
リハビリテーション学科	98.3% (57)	82.4%
【作業療法士】		
医療科学部		
リハビリテーション学科	100% (40)	79.7%
【臨床工学技士】		
医療科学部		
臨床工学学科	97.1% (33)	75.5%
【診療情報管理士】※(財)日本病院会認定資格		
医療科学部		
医療経営情報学科	100% (34)	51.0%





## ご就任・ 新教授紹介

(順不同)



藤田保健衛生大学  
看護専門学校 校長  
(衛生学部 衛生看護学科 2回生)

山本 澄子

よろしくお願  
い  
いたします！

平成24年4月1日付で、藤田保健衛生大学医療科学部看護学科より配置換えにて、藤田保健衛生大学看護専門学校に着任いたしました。よろしくお願ひ申し上げます。

藤田保健衛生大学看護専門学校は藤田学園内では最も古くからの歴史をもっています。昭和39年10月に、南愛知准看護学校がスタートし、昭和58年2月には藤田学園看護専門学校という専修学校として設置の認可を受けています。平成12年4月から現在の藤田保健衛生大学看護専門学校医療専門課程3年課程が開校し今日に至っています。平成26年には藤田学園が50年の歴史を刻む年になります。卒業生として母校の繁栄は、とても喜ばしく、うれしく思います。

藤田保健衛生大学看護専門学校は、全日制3年課程になり卒業生を送り出して10年です。近年は合格率100.0%を維持しています。教職員総勢が一丸となって国家試験対策に取り組んでいます。看護専門学校はこじんまりとした部署ですが、教職員のパワーは全開です。一人何役もこなしているその大変さの中でも、いつも皆笑顔があります。この笑顔に私は助けられています。

ところで、看護師教育は保健師助産師看護師学校養成所指定規則に則り、限られた時間の中で所定の単位を習得すべくカリキュラムが過密になっています。その中で、学生がいかに主体的に思考して知識を習得し、その知識を活用していくかが課題と思われまふ。病院において在院

日数の短縮化が図られている今日、臨地実習で学生が一人の受けもち患者を実習期間通して受けもちことが難しくなり、ケースを極めることに限界が生じているとも考えられます。また、患者（もしくは対象者）の権利擁護の観点からも、目的に合った学習体制が確保できているかどうかとも言えます。近年の社会の実情から、看護師教育における学習内容強化対策および臨地実習場確保対策が重要となりまふ。臨地の実習は体得につながります。専門知識を深め、確実な技術の習得は、学内での演習、臨地での直接体験が「体得する」ことにつながり非常に重要な位置づけにあります。看護教育の充実した環境づくりを目指して、また更なる看護の発展を目指して、教育の場と臨地の場が一丸となって推し進めていくことが肝要と思ひます。

今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。



医療科学部 副学部長・  
臨床検査学科 学科長  
(短期大学 衛生技術科 3回生)

寺平 良治

同窓生のご努力を  
より発展させまふ

平成24年4月1日から、医療科学部臨床検査学科の学科長を拝命しました。紙面をお借りして同窓生の皆様にご挨拶申し上げます。

本学科は昭和43（1968）年、豊明キャンパスに藤田保健衛生大学としては最初に設立されました（旧衛生学部衛生技術学科）。当時、わが国で2番目の先進的4年制大学として開設され、卒業生総数は4,826名にも及び、全国の医療施設、大学、企業などで活躍しておられます。お陰様で本学科が今日臨床検査教育施設としての高い評価と信用が得られているのは、ひとえに同窓生の皆様方のご努力の賜物です。そして本学科は平成20年に、短期大学衛生技術科と統合して、名称も医療科学部臨床検査学科と改めて再出発しているとこ

ろでござひます。

さて、今日の医学・医療や医療教育の状況は、めまぐるしく変化、発展する医療環境の中で、そのニーズに、スピード感をもって柔軟に対応できる人材の育成が急務となっています。しかしながら44年の時を経た本学科の現状は、そのよき伝統が確かに持続している面と、残念ながら後発の大学と比べて出遅れている面もあることも正直な事実です。

そこで私は、本学科は臨床検査教育のパイオニアであるというプライドをもって、当面「再生と創成で臨床検査の雄になる」とのスローガンを掲げました。そして、本学科の原点に立ち返り、日本で有数の教育機関になれるよう本職に専心したいと思ひます。具体的には、本学科が育んできた高い国試合格率や就職率は持続し、学生には4年制大学としての高度な専門知識と技術はむろん、医療専門職者としての自覚と人間性教育もさらに強化し磨きをかけていくことは当然です。これからはさらに、自ら考え、問題を処理し、積極的に行動できると就職先から評価されるような人材も育成していく必要があります。遅ればせながら本学科でもPBL、TBL、OSCEなどの新しい教育システムを導入してまいります。さらに従来医学部に依存してきた大学院教育を、今後は自らの大学院教育を充実させて、高度の知識を持ったリーダーにもなり得る人材を育成していく必要があります。それが真の意味でチーム医療に求められる臨床検査の専門者養成に繋がるものと考えています。

学園創立50周年の機会に、生涯教育研修センター2号館の建設が計画されています。新棟建設が単なる耐震対策に留まるのではなく、同窓生のご努力をより発展させ、将来名実ともに日本有数の臨床検査教育のパイオニア学科として再生できる場になるべく、その責務に励みたいと思ひます。

同窓生の皆様方のご理解とご協力をよろしくお願ひ申し上げます







臨床工学科  
学科長  
(短期大学 衛生技術科  
11回生)  
**川井 薫**

日本有数の  
臨床工学技士養成  
総合拠点大学を目指して！

藤田学園同窓生の皆様には、益々ご健勝で各方面にてご活躍のことと推察致します。

この度、今年4月1日付で、臨床工学科長を拝命し、私には身に余る光栄と心得、この重責に身の引き締まる思いであります。現在、学園は大きな改革期の中、創立50周年に向けて大事業が計画、実施されています。学科長として微力ではありますが、学科、学部、大学の発展に、さらには同窓会の発展に少しでもお役に立てればと考えています。

### ●素晴らしい伝統を継承

藤田学園は、東海地方の臨床工学技士養成大学としては歴史が最も長く、1993年4月に大学としては全国初の臨床工学技士一年制養成施設として、藤田保健衛生大学短期大学専攻科臨床工学技術専攻課程が開校しました。そして、2008年4月からは医療現場のニーズに合わせ、四年制養成課程へと改組発展し、今年で5年目を迎えました。それ故、本学科は短期大学からの臨床工学技士養成期間を合わせると19年間もの歳月を経過している伝統のある学科です。これまで国家試験合格率100%を毎年達成することを一つの目標としてきました。さらに、長年培ってきた伝統を基に、医療現場で役立つ専門知識と技術を兼ね備え、新たな知識・技術を十分に吸収・応用し、さらには研究・開発を目指せる臨床工学技士の養成をおこなっていることが、大きな特徴であります。

本学科は今年3月8日、第1回生34名が卒業しましたが、就職率、国家試験合格率は共に97%と、100%に届きませんでした。就職先は、本学大学病院5名、他大学病院（信州

大学、名古屋大学、三重大学、愛媛大学）4名、国立・市民病院7名、民間病院15名、企業1名、進学（本学大学院）1名と、国立大学病院をはじめ、東海3県でも有名な大病院に決まり、教員一同、安堵しています。

今年度は学科の目標を「全員国家試験合格」、「全員就職内定」と、大きく掲げ全教員がさらに教育・指導に全力を尽くしております。

### ●実践能力を身に付けた

#### 臨床工学技士を育成

本学科は、今年3月末で完成年度までの4年間を無事終えました。現在の教育課程（カリキュラム）の見直しを行っており、平成25年度を目標に新カリキュラム再編成に取り組んでいます。このため新カリキュラム検討委員会を設け、教員や学生からの意見や要望を考慮しつつ、最先端医療の現場に対応できる臨床工学技士を養成するための改善に取り組んでいます。

臨床実習では、本学併設の日本有数の大学病院で、臨床経験豊富な多数の先輩技士が、実践的な技術や知識を丁寧に教育しています。人工心肺装置の操作、人工呼吸装置の操作、人工透析装置の操作、さらにはda Vinciを用いた最先端手術室の見学実習、医療機器の保守管理等、臨床経験を学生時代から肌で感じ、体得できる素晴らしい教育環境で臨地実習を行っています。本学科の学生は、この様な最先端医療機器を駆使する高度医療現場での実習を通して、医療チームの一員としての協調性、責任感、精神力とともに、実社会に幅広く対応できる実践能力を身につけています。

### ●大学院教育と資格取得の重要性

今年4月から大学院保健学研究科修士課程に、臨床工学領域が新しく昼夜開講し、将来の指導的人材を育成しています。今年度は1名が入学しましたが、高度専門技士、研究・開発者及び教育者を目指す学生は、大学院への進路もあります。また将来、知的管理職やリーダーとしてチーム医療の担い手を目指している卒業生の方には、大学院に進学されることをお奨めします。

在学生には、資格取得にも挑戦させていて、3年次に第2種ME技術

実力検定試験を受験させています。

また、卒業後には専門認定士の資格として、透析技術認定士、体外循環技術認定士、呼吸療法認定士など数多くあります。従って、学生諸君には日頃から、明確な目標「志」を持って学ぶことの重要性和、生涯学び続ける姿勢を習得させています。

### ●医療人としての人格形成

本学科は、全国トップクラスの充実した教育施設を十分に活用し、よりハイレベルな臨床工学技士養成を目指しています。そして、学生は将来、尊い人命に直接かかわる重要な仕事につくことから、在学中は早期から良き医療人としての「倫理観」も備え持つ人格形成に精励させるよう、教員一同、全力で頑張っている所存です。

小生の恩師である亡き総長・藤田啓介先生から、「さり気ない自己犠牲を行う君にこそ幸いあれ」と、学生時代に頂いた言葉は、今もなお私へのエールとして、心の支えになっています。今後も自己犠牲を惜しむことなく、藤田学園の発展に、さらには本学科が名実ともに日本有数の臨床工学技士養成施設になるよう全力を尽くしてまいりますので、同窓会の皆様方の暖かいご支援、ご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



医療経営情報学科  
学科長

(衛生学部 衛生技術学科 8回生)

**濱子 二治**

高度な医療経営情報システムを  
担う病院マネジメントの  
専門職育成を目指して

このたび初代学科長山内一信先生の後任として2012年4月1日付で医療経営情報学科長を拝名することになりました。

振り返れば1979年に新設の救命救急センターに就職し、1985年1月1日からは藤田学園衛生技術短期大学衛生技術科の生理学助手として、臨



床生理学の脳波・筋電図部門の講義と実習を担当させていただきました。また、1996年には短大に医療情報技術科が誕生し、人体機能学の講義も担当いたしました。その後、2008年から本学科の生理学の教授として就任し、山内先生の下で学科長補佐としても学科運営に関わってきました。これまでの28年間は臨床検査技師としての臨床経験のほか、臨床検査技師、看護師、臨床工学技士、診療情報管理士育成のための教育・研究に携わってまいりました。

医療経営情報学科は2008年に開設され、初年度は19名（定員30名）からのスタートとなりました。その後、学生確保の対策として、高校訪問の継続と強化、一日体験入学の実施、ホームページの充実等の広報活動を行い、さらに入試改革として、一般入試での第二志望の設置と入試科目の見直しを行いました。その結果、第2回生（37名）、第3回生（41名）、第4回生（43名）と入学者を確保することになり、本年度の第5回生も45名の入学者を迎えることが出来ました。また、本年度には大学院保健学研究科に医療経営情報学領域を増設し、研究者・高度専門職業人を目指す3名の社会人の入学者も迎えることが出来ました。この春初めて卒業した第1回生は、診療情報管理士認定試験の合格率100%、就職内定率も100%と、少ない人数ながらし

っかりと実績を残してくれました。また、今年の第2回生の診療情報管理士認定試験の合格率も100%となり、2年連続の快挙となりました。現在、本学科では12名の専任教員が教育にあたっておりますが、ここに至るまでには客員や他学科、医学部の先生方をはじめ、事務部、広報部、学事部キャリア支援課の職員の方々など、多くの皆様にお力添えを頂きました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、現代の医療では、多岐に亘る膨大な医療情報を的確に整理し、これらを経営・管理に役立つよう迅速かつ効果的に運用できる人材が求められています。本学科は、このような高度な医療経営情報システムを担う人材育成の必要性から設立されました。

卒業までに目指す主な資格は、診療情報管理士と医療情報技師です。診療情報管理士は、「医学・医療」の知識を背景に、カルテ管理のエキスパートとして医療の質の向上に貢献します。特に、包括評価支払い制度（DPC）への対応を担当し、種々の臨床指標、病院管理指標の算出・分析を行い、良質で効率的な医療を遂行するための医療情報の分析者として医療を支えています。また、医療情報技師は、病院情報システムや病診連携のためのシステム構築、あるいは全国の医療機関との情報ネッ

トワークの構築などの担い手となって電子カルテの開発などに活躍しています。さらに、医療機関の経営方針・経営戦略の立案に参画でき、効率的な医療機関経営の改善・実施にあたることができるように、経営・管理に必要な諸指標の算出や分析法を学び、経営能力の基礎も身につけます。医療の質を向上させるためには、医療機関のシステム全体を管理し、状況を分析する『マネジメント（経営管理）能力』が必須です。本学科では、医療機関の将来を担う人材、すなわち優れたマネジメント能力を持ち、情報通信技術、医学・医療の知識をバランスよく備えた医療事務職のプロフェッショナルを養成します。

今日までの研究成果や教育者として成長できたことは周囲の先生方のバックアップに加えて、卒論生をはじめとするたくさんの学生さんのおかげでもあります。今後も医療経営情報システムを担える人材育成に全力を尽くしたいと思います。設置の趣旨を重んじ“良き医療人”“良き医療管理者”を育成すべく優秀な医療経営学、医療情報学、診療情報学領域のスタッフ一同と共に頑張りたいと考えております。

今後とも皆様方のご協力、ご支援を賜りますように宜しくお願い申し上げます。



## 生涯、 産科医をめざし

坂文種報徳會病院  
医学部 教授（産婦人科）  
（医学部 医学科 2回生）

多田 伸

平成24年4月1日付で藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院産婦人科教授を拝命しました。私は昭和54年に名古屋保健衛生大学（現：藤田保健衛生大学）医学部を卒業し、昭和55年に福島 穰教授（現：名誉教授）が主宰される同大学産婦人科学教室

に入局いたしました。当時は総勢13名の医師が豊明の第1病院と中川区の第2病院（藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院）で診療に従事しておりました。不出来な研修医の私はすぐには戦力とはならず、当時の福島教授、米谷助教授（前：坂文種報徳會病院院長、現：名誉教授）、馬島講師（前：伊勢慶応病院教授）には随分御苦勞をおかけしたと思います。

昭和62年から3年間、奥三河にあります新城市市民病院に1人医長として赴任しました。分娩は年間250件ほどで、帝王切開や婦人科手術の際には大学から応援医師をお願いする体制でした。当時、切迫早産（妊娠30週）の妊婦を入院管理しておりましたが、妊娠継続が限界となり、母体搬送する時間的余裕もなく、帝王切開としました。当然、1500g前後の低出生体重児が予測されましたの

で、応援依頼をしたところ浜松市の周産期センターから新生児専門医が駆けつけていただきました。無事胎児を娩出後に児搬送となりましたが、その新生児科の先生が「いいタイミング、いい状態でこの子を娩出していただきましたね」と声をかけてくださいました。この一言が何よりもうれしく、その後、周産期医学をめざす大きな要因となりました。

平成23年の人口動態によれば、出生数約106万人、死亡者数が約126万で年間約20万人の人口が減少しています。計算上では西暦3300年ごろには日本人が存在しなくなるという恐ろしくなるような警告文書もみられます。

私達、産科医は出生数増加に貢献すべき立場にあります。私個人としても、何とか、生涯、産科医として非力ではありますがお役に立てればと思います。



今後は、藤田学園そして藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院産婦人科の発展のために、非力ですが努力する所存です。藤田学園同窓会の皆様、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



医学部 教授  
(臨床総合医学)  
(医学教育企画室 室長)  
(医学部 医学科 11回生)

大槻 眞嗣

## 多職種連携教育の推進

平成24年5月1日付で医学部臨床総合医学教授を拝命致しました。お心遣い下さった諸先生方に感謝申し上げます。

私は昭和63年に本学医学部を卒業した11回生です。卒業と同時に循環器内科(水野 康教授)に入局し、研修修了後、専修医として臨床に携わりました。平成6年に薬理学教室(萩野泰道教授)へ助手として移籍し、教育、研究に従事し、医学博士を取得させて頂きました。野村隆英教授の指導の下、分子生物学を学んだ後、平成11年に循環器内科(菱田 仁教授)に講師として帰局し、臨床、教育、研究に携わりました。平成18年に助教授へ昇任するとともに、医学教育企画室の兼務を開始しました。室長(松井俊和教授)から、3・4年生を対象とした小人数グループ学習授業のPBL(Problem-based Learning; 問題発見解決型学習)テュートリアルに携わる機会を頂戴し、コーディネーターの先生方とともに生涯教育研修センター1号館13階SG(Small Group)フロア全体を利用した「藤田式PBL」(医学教育 2011. 42: 135-140)を確立することができました。

平成19年から医学教育企画室を兼務しております。教員教育、横断的な授業、臨床実習前に実施する共用試験(知識を問うCBTと技能・態度を評価するOSCE)、や卒試・総合試験の管理運営、国家試験対策

を行っています。また、コンケン大学(タイ)やミラノビコッカ大学(イタリア)との医学生との国際交流、生涯教育研修センター1号館14階CS(Clinical Simulation)フロアにおけるシミュレーション学習なども推進しております。

今後の私の専門領域は、臨床総合医学となります。臨床医学総論(松井俊和教授)では、1、2年生における医学教育の導入部分と6年生の総括部分を担当し、臨床総合医学としては、3、4、5年を中心とした臨床教育を担当します。しかしながら、担当学年を分けることは難しく、臨床医学総論と協力して入学から卒業までの医学教育の下支えをさせて頂きます。平成24年7月から医学教育企画室の室長を拝命しました。身の引き締まる思いです。更に、新たなアセンブリ教育の一環として学部学科の垣根を越えた多職種連携教育(IPE; Inter-professional Education)を推進したいと考えております。

藤田学園全学同窓会のご支援を賜りながら、医療人教育における藤田ブランドを確立していきたいと存じます。今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。



医療科学部 教授  
(看護学科  
成人看護学)  
(衛生学部 衛生看護学科 17回生)

中村小百合

## 藤田学園で学ばせて いただいたことへの感謝と 今後の抱負

この度、平成24年4月1日付で藤田保健衛生大学医療科学部看護学科成人看護学教授を拝命致しました。就任にあたり御尽力いただきました藤田保健衛生大学の諸先生方に厚く御礼申し上げます。

私は藤田保健衛生大学を卒業し、藤田保健衛生大学病院で5年間看護師として働いた後に、母校で看護学教員として着任いたしました。その当時を振り返ってみると、教員とし

ての基盤作りをするうえで貴重な経験をさせていただいた時期であったと思います。講義、演習、実習、卒業研究の指導などを担当致しましたが、それはフィードバックして自分自身と向き合うことでもあります。自分の未熟さと力不足を痛感し、どのようにしたら務めが果たせるのかと考え、もがいておりました。その時期を何とか乗り越えて、今日に至るまで歩み続けることができたのは、諸先生方のご指導や職員の皆様からのご支援、そして共に学ばせてもらった学生達のお蔭だと思えます。心より感謝しております。

私には現在10歳の子供がいます。夫の単身赴任が長期間に渡りましたが、子供を安心して任せられる両親の存在と仕事に対する夫の理解があったからこそ仕事と子育てとの両立ができたのではないかと考えています。家族にも感謝しています。

教員経験が長くなるにつれ、仕事量が増え、責任の重さも増えています。正確に効率よく、かつ心を込めて、どのように仕事を行っていくかを考えなければなりません。私は、一人ひとりが責任をもって仕事をし、チームで協力することにより、個人の力も組織の力も向上するのではないかと考えています。仲間同士が支えあい、伸ばしあえる環境作りに貢献していきたいと思えます。そして、人との関わりを大切に、看護学教員として必要な専門知識と技術を自ら学び、藤田学園の更なる発展のために努力致しますので、今度とも皆様のご指導・ご支援を賜りますよう何卒お願い申し上げます。



整形外科 定員外教授  
(上肢・手の外科担当)

鈴木 克侍

## 上肢・手の外科を 診る誇り

平成24年4月1日より、整形外科学主任教授 山田治基先生の御推薦



で整形外科学教授（定員外：上肢・手の外科担当）を拝命しました。

私が教授を拝命しました『上肢・手の外科』という言葉に馴染みがない方も大勢おられると思います。私たちが治療している『上肢・手』はヒトを人間に変えた重要な器官なのです。そして『第二の脳』ともよばれています。ヒトが猿から大きく進化した第一歩は、移動に利用する足の数を四本から二本に減らして直立歩行し、余った二本の前足を手として使用して、大好物で貴重な栄養源である果物や木の実などを口で咥えて運ぶのではなく、両手で持って家族のもとにより大量に運ぶことを始めたことです。このあとは皆さまが御承知のように、手を使って、道具を利用し、様々な作業を効率よくできるようになりました。道具を頻繁に使うことによって手の動きは精密になり、手の動きが精密になることによって、道具がさらに進歩するというポジティブ・サイクルができあがり、文明が飛躍的に進歩し、今日の人類の繁栄ができあがりました。『上肢・手』はヒトが人間として生活する上で最も大切な器官と自負しています。この『上肢・手』の疾病や外傷を治療するのが『上肢・手の外科』です。

藤田保健衛生大学病院には診療科が35あります。どの科も、人間の健康になくてはならないものであり、それぞれの科に誇りがあります。整形外科は骨、関節、靱帯、筋、腱、神経、血管、皮膚など支持骨格、運動器を扱う科であり、整形外科医は運動器を介して、皆さまの健康に貢献することを誇りとしています。そのなかでも『上肢・手の外科医』はヒトが人間として生活するために最も必要な運動器でありながら『第二の脳』といわれる『上肢・手』を治療することを誇りとして急性外傷や慢性疾患に取り組んでいます。

皆様も骨折や捻挫などの外傷や、関節、筋、腱、神経の炎症、たとえば五十肩や腱鞘炎、神経炎などで『上肢・手』を自由に使用できなくなった時に、人間らしい生活ができないと非常に不便を感じられたことがおありでしょう。食器や道具が上手に使えない、服を一人で着がえられない、排泄の事で恐縮ですがウォシュレットがないと始末ができないなどです。人間としての礼節、品格

にかかわる事態にまで発展します。これらの不自由を治療することにも誇りを持っています。

このように自分が診察・治療する分野に誇りを持ち仕事ができることは本当に幸せです。今後とも『上肢・手の外科』の発展と患者様の健康のために、臨床・研究・教育に精進してまいります。御指導、御鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



七栗サナトリウム  
内科 教授

脇田 英明

総合的な  
認知症医療を  
目指す

この度、平成24年4月1日付で藤田保健衛生大学七栗サナトリウム内科教授を拝命いたしました。就任にあたり御尽力いただきました諸先生方に深く感謝申し上げます。

私は昭和63年に京都大学を卒業しました。内科の分野の中では神経内科を専門としております。脳卒中、認知症を中心に京都大学医学部附属病院等の医療機関、国立長寿医療研究センター等の研究機関にて神経疾患の診療と研究に携わって参りました。

神経疾患のなかでも、認知症は高齢社会の到来とともに急速に患者数が増加し、65歳以上の人口の7%を超える患者数があるとされ、高齢化が進むとともに、さらに患者数が増加してゆくと推測されており、医療面のみならず社会的にも非常に重要な問題となっております。

七栗サナトリウム内科の実績であります 1) 地域と密接に連携しながら、個別性に配慮した高齢者医療、2) 入院患者の内科的合併症の治療の伝統を受け継ぐとともに、私の専門領域であります神経疾患、特に、認知症を対象とした診療において、七栗サナトリウムの特徴であります質の高いリハビリテーションの資源を有効に活用し、また、医療、介護の地域ネットワークを構築し、密接

な連携を基盤とした在宅、医療機関、介護施設すべての段階をカバーする総合的な認知症医療を目指します。今までに築かれた伝統を受け継ぎながら、新しい分野を発展させることで、地域社会に貢献できる医療を実践できればと考えております。研究面でも、臨床への応用を目標とした認知症や脳卒中の診断法、予防・治療法の開発研究について、藤田記念七栗研究所との共同研究を推進できればと考えております。認知症の診療は、根気強い取り組みの必要な、大きなテーマではありますが、全力で取り組みたいと考えております。教育面においても、高齢者医療、認知症医療などの特徴を生かした教育プログラムに取り組みたいと考えております。

今後とも、更なる御指導、御鞭撻を賜りますよう、宜しく御願ひ申し上げます。

## Interventional Radiologistとして



医療科学部 教授  
(放射線学科)  
(大学院 医学研究科  
平成10年卒)

加藤 良一

この度、平成24年4月1日付で医療科学部放射線学科教授に昇任させて頂きました。ご推挙、ご高配を賜った諸先生方に厚く御礼申し上げます。

私は平成元年に防衛医科大学校を卒業し、航空自衛隊幹部候補生学校を経て、防衛医科大学校病院の研修医となりました。学生時代に放射線科でinterventional radiology (IVR) を見学し、画像診断技術を駆使して施行する低侵襲治療に強い興味を抱き、放射線科に入局し、以後IVR一筋に研鑽を積んできました。防衛医大ではBudd-Chiari症候群や悪性腫瘍による閉塞性黄疸のステント治療などのIVRを数多く経験させていただきました。研修修了後は部隊配属となり、航空自衛隊浜松基



地や岐阜基地で一般診療やパイロットの健康管理を行いました。この間、自衛隊の通修制度を利用して浜松医科大学放射線科にて研修を行いました。浜松医大でも当時日本ではまだほとんど行われていなかった経頸静脈門脈下大静脈短絡術（TIPS）や門脈内ステント留置を自作のステントを使用して施行させていただきました。今では考えられませんが、当時は市販のステントはなく、自分でステンレスワイヤーをラジオペンチで曲げ、ハンダ付けをして作成し、滅菌して患者に使用していました。徹夜して自作したステントが患者の血管や胆管の中で拡張し、患者の症状が軽快すると、独特の充実感が得られ、毎日夢中でIVRを行っていました。

その後、平成6年4月に自衛隊の国内隊費留学生として本学大学院医学研究科に入学しました。本学で当時産学協同開発中であったCT透視法を見て驚愕しました。当時の一般的なCTスキャナではスキャン終了後に画像が再構成され、画像が表示されるまでに数十秒を要していました。ところが、本学のCTスキャナでは超音波装置のように画像がリアルタイムに動画像として表示されていたからです。このときからCT透視法に魅せられ、CT装置の開発とIVRへの臨床応用に携わらせていただき、古賀教授、片田教授、安野教授のご指導のもと、CT診断、CT透視下IVRおよび放射線被曝防護などの臨床、研究の業績を積み重ね、平成10年に学位を授与されました。大学院卒業後、自衛隊那覇病院勤務を経て、平成11年に自衛隊を退職し、本学に奉職しました。

私の担当する講義科目は医学概論、臨床医学概論、画像解剖学、診療画像技術学、診療画像学概論などで、放射線医学の中の医学の分野です。これまでの臨床・研究経験を活かしながら、教育に当たっていきいたいと思っています。また、学生教育の傍ら、これまでと同様に、第1教育病院で放射線診断とIVRを行い、臨床各科のお役に立てればと考えております。



## 恩師からのお便り

（順不同）



## 実践教育の重要性

臨床看護研修センター  
臨地実習指導者講習会  
分野責任者

森 チカヨ

今年の3月31日付で藤田保健衛生大学看護専門学校を退職し、4月から藤田保健衛生大学医療科学部に開設されました臨床看護研修センターに非常勤で勤務することになりました。

センターでは8月20日から厚生労働省の認定を受けて「臨地実習指導者講習会」が開講し、47名の受講生が残暑の厳しい中勉学に励んでいます。

近年、看護教育においては医療の高度化や患者ニーズの増大・多様化などに伴い高い臨床能力・実践力が求められていますが、新人看護職員の臨床能力は現場の期待するレベルに達していないと言われています。

また、看護基礎教育終了時点の能力と看護現場で求める能力とのギャップが新人看護職員の職場定着を困難にする最大の理由となっています。さらに医療安全の面でもヒヤリハット事例では経験年数3年未満の看護職員が関与する割合が相当数存在し、医療過誤により保健師助産師看護師法による行政処分を受けた事例も少なくないという状況があることも指摘されています。

これらの現状を踏まえ「新人看護職員研修」については厚生労働省が平成22年度から施策を進めています。新人看護職員の臨床能力や実践力は看護基礎教育やカリキュラムの課題でもあります。

限られた修業年限の中で看護実践力の強化など看護現場での期待に応えるには臨地実習の条件整備を含め

看護基礎教育の内容の充実が必要で、看護現場と教育の場とがこれまで以上に連携・協働し、社会のニーズに対応できる看護職員の育成に努めることが求められていると思います。

今回、センターで開講した「臨地実習指導者講習会」はこれらの課題に対して重要な役割を担うことにもなる看護現場の指導者を育成することを目的としています。

臨地実習指導者については現在、愛知県や名古屋市の主催で「臨地実習指導者講習会」が実施されていますが県内における実習施設は病院だけでも約140か所程あり、必要とされる指導者（各実習病棟単位に複数）の育成をカバーできる規模ではありません。

医療科学部では、これら臨床現場や看護教育の現状を踏まえ将来に亘り充実した臨地実指導體制を築くため臨床看護研修センターを設立されたと伺っております。

臨地実習は学生にとって看護実践に必要な知識、技術の獲得さらには専門職としての倫理面の体得にも貴重な学びの場となります。

臨地での学びを担っていただく「臨地実習指導者講習会」の受講生の皆さんの教育環境を整え共に学んでいきたいと思っています。



藤田保健衛生大学  
名誉教授

加藤 高秋

いつまでも  
フレッシュな活動を

本年3月末日をもって、藤田保健衛生大学を定年退職いたしました。平成9年4月に短大に赴任いたしましたので、15年間藤田学園に在職させていただいたことになります。

平成19年度までは、短大の専攻科および医療情報技術科において電気・電子工学を担当しました。

短大には個性煌めく学生も多く、



彼らから学びまた励まされたことも多々あります。平成20年4月、衛生学部開学40周年という節目の年を迎えての医療科学部の誕生に合わせて新設された臨床工学科に配置換えとなり、4年間学科長を務めさせて頂きましたが、皆さまのご協力を得てなんとか無事に任務を果たせたと安堵するとともに、しみじみ感謝しているところです。

臨床工学技士は、呼吸・循環・代謝に関する生命維持管理装置や関連医療機器の操作や保守・点検を行う医療の専門職です。本学科では医療系総合学園としての特色を活かし、医療と工学に等しく重点を置いた専門教育を実践してまいりました。さらに、藤田保健衛生大学病院のご協力を賜り、経験豊かな臨床工学技士の指導のもと、マンツーマン体制で、充実した臨床実習を実施することができました。

平成23年には完成年度を迎え、皆様方のご尽力が結実したのでしょうか、無事に第1回生を送り出すことができました。国家試験も35名中34名が合格し、就職も本学をはじめ名古屋大学、信州大学等の大学病院や地域における基幹病院等に数多く決まりました。今年度からはカリキュラム改革や大学院を含めた教育指導の改善に向けた取り組みが始まっています。これからも、多くの課題を背負いつつ、先生方がベクトルを合わせて、より充実した臨床工学科の実現に向けて頑張っていたただけるものと期待しております。

ところで、私は退職を機に、地元のアマチュアオーケストラに入団し、バイオリンを弾いています。6月に定期演奏会があり緊張の初舞台となりました。また秋には市民音楽祭で市民合唱団とともにモーツァルトのレクイエムを演奏します。日頃の練習は大変ですが、反復練習の末に難しいフレーズがようやく弾きこなせるようになる達成感は格別です。これは学生の勉学、とくに国試突破に向けての不断の努力に通じるものがあります。まさに、継続は力なりを実感する毎日です。これから常々フレッシュな気持ちで、幅広い年齢層の仲間の皆さんとともに合奏を楽しみたいと思っています。

最後になりましたが、これまで絶大なるご支援を賜りました同窓会の皆様に改めて感謝の意を表すると

もに、藤田学園が今後ますますご発展を遂げられるよう祈念致します。



医学部における  
38年間の研究活動を  
振り返って

藤田保健衛生大学  
医学部 客員教授  
太田 好次

私は、昭和48年に名古屋保健衛生大学（現藤田保健衛生大学）医学部生化学講座の助手となって以来、医学部の化学の教授として退職するまでの38年間、医学部で教育・研究に携わってきました。この38年間における研究活動を振り返ってみますと、最初の10年間余りはトリプトファン代謝の研究を主に行っていましたが、研究成果を論文としてまとめ、発表するまでに至りませんでした。しかし、その後は研究成果を論文として毎年発表することができるようになりました。38年間で発表した論文は、欧文論文が152報と和文論文が178報です。最初の英語の論文は自分自身で四苦八苦しながら書きあげたもので、英文の校閲を受けないでBiochemical Pharmacology（1983年）に掲載されました。このことにより論文を英語で書くことに自信がつき、英語で書くことに抵抗がなくなりました。このように論文を英語で書くことができるようになったのは、絶えず欧文雑誌の論文を図書館でチェックし、必要な論文をコピーし、読むようにしてきたことにより、多くの欧文雑誌の論文を読むことにより、書く内容をどのように英語で表現したらよいか分かるようになりました。研究成果を英語の論文としてまとめ、欧文雑誌に発表してきたことにより、多くの論文の別擦り請求がきました（現在はほとんどありませんが）。また、多くの論文が欧文雑誌の論文で引用され、欧文雑誌の編集者から論文査読の依頼も多くきました。しかも、欧文雑誌の編集者にとの依頼も受けまし

た。Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine（2011年のImpact Factorが4.774）の編集者となり、現在も継続しています。また、Journal of Nutritional Science and Vitaminologyと日本ビタミン学会誌の編集委員、国内の6つの学会の評議員と2つの研究会の幹事となり、現在も継続しています。

欧文雑誌の編集者をしていて感じることは、研究の内容ばかりでなく、文法的な誤りや明確に書かれていない箇所がなく、理解しやすい英語論文を書くことの重要性です。現在研究を行っている大学院生や教員の方々は研究成果を英語の論文としてまとめ、欧文雑誌に発表し、研究活動を活発に行ってほしいと願っています。



いまは学生への  
感謝の気持ち

医療科学部  
客員教授  
川本 保子

名古屋保健衛生大学医学部が開設されて間もない1974年に医学部細菌学の助手として採用されました。以来38年間在職し、本年3月末で定年退職しました。

当初は研究以外に、故小川 透教授や客員教授の前野幸一郎先生の講義に同行して学生の授業態度の監督が仕事でした。微生物実習で初めて学生を指導しましたが、講義にしろ実習にしろ、教員の目を盗んで実にくまなくエスケープする人、漫画や小説を読んでいる人がいて、感心したり腹を立てたりの未熟な教員でした。後日、講義を担当するようになりましたが、講義後に毎回必ず質問に来る学生がいました。講義の準備をしながら、次はどこを質問してくるかなと考えて念入りに勉強したものです。質問の予想が的中すると快感で、今となっては懐かしい思い出です。現在は医師としてご活躍なの



か、研究者になっておられるかなと勝手な想像をしています。

1998年に衛生学部（現医療科学部、臨床検査学科）へ移り、微生物学を担当しました。女子学生が7～8割を占めるためか非常に真面目でした。実習中に一斉に顕微鏡を観察する姿は圧巻で感動的でした。こちらでは1～4年生まで毎年関連の科目があり、講義や実習の時間が格段に増えました。担任になることもあり、学生との距離はますます近くなりました。4年次の卒論では毎日共に研究することで、さらに親しくなれたと感じます。学生時代から、教員という仕事に苦手意識がありましたが、教育という仕事の良さを学生から教えられたと感じています。

在職時は常に時間に追われる毎日だったので、現在はゆったりした時間の流れを楽しんでいます。退職前に庶務課で失業給付の受給を勧められたので、手続きのためハローワークへ行き、その後何度か通いました。初めて履歴書を書きましたが中々大変で、4年生が就職のために一生懸命書いていたのを思い出しました。大学の研究室での経験しかないので、できる仕事は限られます。数少ない求人に応募しても見事に不採用でした。さほど就職したかった訳ではないが、高齢者の就職の難しさをつくづく感じました。この不況時に、年金を貰える高齢者が職を奪うなど言われているように感じ、大手を振って自分のやりたいことをやろうと決めました。今後は旅行と読書を楽しむ、健康維持と老い支度をするのが義務のようです。



名古屋大学 名誉教授  
東海学園大学  
経営学部教授

皆川 正

いつでも  
あなた方を応援

卒業してから、すでに半年が過ぎようとしております。4年間の学生生活を終え、期待とともに社会に巣

立って行かれたわけですが、これまでに様々なことを経験されたことと思います。

学生時代とは異なり、社会生活の歯車に組み込まれることには希望もありますし、失望もあります。希望を持たれている方はさらに努力を、また、失望を感じられた方は初心を忘れないで下さい。私たちはいつでもあなた方を応援しております。



椋山女学園大学  
看護学部 看護学科  
基礎看護学 教授  
箭野 育子

一層の  
期待  
“結束力”

高校卒業とともに名古屋を離れ、東京での生活が長くなっていた平成15年、縁あって藤田保健衛生大学衛生学部衛生看護学科に赴任致しました。面接のために初めて藤田学園に來訪した時のことを昨日のことのように思い出します。基礎看護学で技術を担当する同僚の先生と技術をどう教えていくか、将来の展望など初対面で話し込んでしまったことは、藤田の看護教員としての自分を自覚した瞬間だったように思います。あれから9年、決して長い期間ではありませんでしたが、中身はどこよりも濃い9年間でした。

基礎看護学で技術を担当し、朝は講義開始前の30分、お昼休み、そして業後、学生の技術チェックは毎日の生活の大半を占めていました。何度もチェックを受けて、合格した時の学生のほっとした顔、うれしそうな顔にこちらの苦労も報われました。

看護学科において最も重要となるのが看護師、保健師の国家試験対策です。毎年国家試験の発表日は祈るような気持ちで結果を待ちました。4年生の担任をしていたときはなおさらです。自己採点の結果からおおよそ予想はしていても、看護師国家試験は合格基準が一定でないため結果が発表されるまでは気が抜けない

のです。藤田保健衛生大学医療科学部看護学科は、伝統だけでなく、国家試験合格率に示される実績を持つ大学です。そのブランドを維持し、さらに高めていくことは並大抵の努力ではできません。藤田では教員の結束力こそがブランドではないでしょうか。

平成24年3月、定年まで2年を残して退職し、新設3年目の大学に異動しました。今はまだ手探り状態です。藤田のように教員が一丸となって学生を育てていく環境づくりには時間がかかるかもしれません。それでも一人ひとりの教員が真摯に学生と向き合い、ともに歩んでいければまた一つ素晴らしい看護職を育てる環境ができると思っています。藤田とはライバルになりますが、ともに切磋琢磨して、良き医療人、良き看護職を育てていけるよう頑張りたいと思っています。まだまだ藤田から学びたいことがたくさんあります。どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。



東員病院・  
認知症疾患医療センター  
院長

山内 一信

卒業生へのメッセージ  
医療は  
専門職の協働作業

今年の卒業式は3月8日でした。この卒業式は医療経営情報学科卒業生にとっても教員にとっても、そして私自身にとっても特別なものでした。4年前、将来の病院・医療マネジメントを担う人材を育てる学科として期待され医療科学部に医療経営情報学科が新設されました。残念ながら第1回生は30名定員のところ19名の入学者で、定員に満たず、学科にとっては負い目となってしまいました。定員ということであれば、平成23年の完成年度でははるかにオーバーするレベルに到達し、当学科が最も重視していた資格・診療情報管理士は16名中16名が取得、卒業研究も無事終え、就職も17名全員が決まり、



新設学科としてその役目は十分達成できたと思っています。そんな中で卒業式でした。2000人ホールから学科に戻って17名一人一人に卒業証書を渡し、続いて学科長としてお祝いの言葉を述べました。卒業生をみると皆、目を真っ赤にして泣かんばかりか、泣いていた学生もいました。小生も感極まりつつ、最後の言葉「いよいよ別れの時が近づいてきました。諸君たちと勉強できたことを誇りに思います。社会での活躍を心から祈念します」をやっとの思いで結ぶことができました。

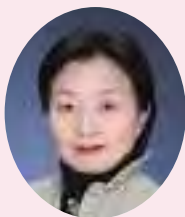
私は新学科完成の任を終え、本年3月に退職、その後東員病院に勤務しています。この病院は本来、精神科の病院ですが、今は認知症疾患医療センターに舵を切り247床のうち85%近くが認知症患者です。いったんこの病気にかかると完治は難しいですが、薬物療法、作業療法、精神療法などにより、いわゆる主症状である認知機能の改善が見られますし、幻覚・妄想、徘徊、うつなどの周辺症状も改善します。結果的には軽快して在宅に戻りますが何らかの事情で家に戻れない患者さんは病院で治療を続けます。

私がここにきて感じたことは、今まで医療は医師中心に回っていると思っていましたが、勿論医師は診断・治療という診療の中核にはいますが、患者さんが医療者と接する時間は看護師、精神保健福祉士、介護福祉士、臨床心理士、作業療法士、理学療法士、管理栄養士、診療放射線技師、臨床検査技師などの医療専門職の方たちの方がはるかに多く、その役割の大きさがよくわかります。医療専門職がそれぞれの役割に徹して仕事をするとはそれぞれの質・技術の向上のみならず、ケアの効率性が上がります。医療経営情報学科ではチーム医療や連携医療の重要性を講義していましたが、今ほど患者さんの回復に向けた医療専門職による協働医療の重要性を認識したことはありません。皆さん、藤田保健衛生大学の卒業生としての誇りをもってよい医療実現に向かって頑張ってくださいと期待します。

平成23年10月10日 藤田学園開学記念日に詠む 「啓翁の独創一理天高し」



## 同窓会員の活躍 (順不同)



日本赤十字豊田看護大学  
学部長  
(衛生学部 看護学科 5回生)

大西 文子

日本赤十字豊田看護大学  
学部長を拝命して

約30年間もの長きに渡り、母校の藤田保健衛生大学で看護教育に携わらせていただいた後、昨年4月本学へ就任いたしました。そして2年目の今年4月より、学部長を拝命いたしました。

私は、藤田学園在職の折には助手の頃より退職するまで、教務委員会等の業務をさせていただいたお陰で、看護教育には私なりの一貫した信念のようなものを持っていると自負しております。しかし、これまで教授職範疇の管理に留まっておられ、経営にかかわる管理職は初めての経験であり、私に勤まるのか、半信半疑で悩み躊躇していました。そのような折、高校生の時「看護一日体験」をさせていただいたのは三重県伊勢市にある伊勢赤十字病院（旧山田赤十字病院）であること、また中学生の折日本青少年赤十字クラブで活動していたことを思い起こしていました。さらにご縁があり、昨年度日本赤十字社の関係機関である日本赤十字学園の6大学のひとつである本学に着任したことを振り替えておりました。そこで、気づいたことは、人にはこれらの縁というか「輪廻」というものではないかと、このような人間や社会の関係性のもとに活かされているのではないかと思うことでした。その時には、もはやその躊躇は消え去っており、学部長を拝命いたしました。

学部長就任後早7ヶ月、いろいろなことがありましたが、何とか無事半年を乗り切ることができました。

これもひとえに、本学教職員皆様

のご協力とご支援の賜物と深く感謝しております。

今後は、母校で培った看護教育の根幹をなすものを礎として、この責務を全うできるように邁進する所存です。特に、看護の根幹にもつながる「人間を救うのは人間だ!」という「赤十字」の精神に根付いた本学のディプロマポリシーをもった看護学生を育てていきたいと思ひます。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



金城大学  
医療健康学部 教授  
(衛生学部 衛生技術学科 14回生)

森 啓至

理学・作業療法士の  
国家試験合格  
100%めざす

私は昭和60年に、当時の藤田学園保健衛生大学 衛生学部 衛生技術学科（14回生）を卒業しました。その後大学病院臨床検査研究部で約5年間、さらに医学部生理学教室で助手、講師として21年4ヶ月間、さらに学生時代を合すると30年以上の期間を藤田学園でお世話になりました。そして平成24年4月、石川県白山市にあります金城学園 金城大学 医療健康学部に教授として着任いたしました。

今年50歳になった私にとって、人生の半分以上を藤田学園で過ごしたことになります。この大学を去ることは断腸の思いでしたが、50歳という節目の年に新たな環境に挑戦する決心で、単身石川県にやってきました。金城大学は社会福祉学部、医療健康学部からなり、同じキャンパス内には短期大学が併設されています。私の着任した医療健康学部は平成19年に開設され、理学療法学科と作業療法学科（平成25年開設予定）の2学科からなる新しい学部です。北陸地方では、理学療法士、作業療法士を養成するための大学は少なく、地域の要望に応えるべく官学共同で開設されました。金城大学では生理学の講義・実習および解剖学実



習など、低学年での基礎医学教育を主に担当しています。これまで藤田学園では医学部に籍を置いていましたが、リハビリテーション学科の前身である藤田保健衛生大学リハビリテーション専門学校において、生理学の講義・実習さらに生物学の講義を担当しておりましたので、リハビリテーション教育に携わることは2度目に成ります。

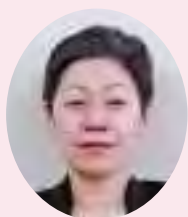
金城大学で求められることは、優秀な理学療法士、作業療法士を育成することはもちろんですが、まずは

国家試験の合格者を100%に限りなく近づけることだと思っています。

藤田保健衛生大学では、毎年ほぼ100%の国家試験合格者を維持していますが、それがどれほど難しいことなのか、どれほど大変なことなのか、金城大学に来て学生と接し再認識しております。また、金城大学は附属病院を持っておりませんので、臨床実習等に北海道から九州まで全国の病院へ学生が出向いております。おそらく、藤田学園出身の先生方にも、金城大学の学生がお世話に

なる機会があるかと思います。その際にはご指導のほう、どうぞよろしくお願いいたします。

今、外に出た人間として藤田学園を振り返ってみますと、いろんな意味で藤田学園の大きさを改めて認識しています。私自身、藤田学園で得た知識と経験を生かし、金城大学が少しでも藤田保健衛生大学に近づけるよう貢献したいと思っています。それが母校に対する恩返しになると信じて・・・。



公益社団法人 愛知県看護協会  
認定看護管理者教育課程 主任教員  
(南愛知高等看護学院(現 藤田保健衛生大学看護専門学校) 10回生)

小島登美香

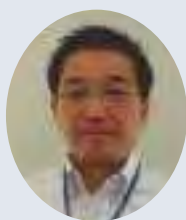
日本看護協会  
会長賞を受賞して

このたび、公益社団法人日本看護協会通常総会(平成24年6月5日)において、日本看護協会会長賞を受賞しました。35年余協会会員として活動してきた結果、このような栄誉を受けられたことを大変うれしく思うとともに、支援してくださった先輩諸姉、一緒に仕事をしてきた看護職の同胞の皆様方に感謝いたします。

卒業後、藤田保健衛生大学病院呼吸器・膠原病内科、救命救急センターの看護師を経験したのち、昭和58年に母校である南愛知高等看護学院(現藤田保健衛生大学看護専門学校)に実習指導者として異動、専任教員、実習調整者、教務主任と役割を拝命し19年間在職しました。この間の社会状況及び医療環境の変化は著しく、より高度の知識・技術が求められるようになりました。社会の要請に応える看護師を育成するため、看護専門学校は二年課程から三年課程に課程変更、学校法人藤田学園の祖である准看護学校はその役割を全うしたとして、平成11年3月38年の歴史に幕を下ろし、平成14年3月には二年課程を閉校しました。20年ぶりに復帰した臨床現場では、看護教育科長として継続教育に関わり

ました。この間に、愛知県看護協会の広報委員、30周年記念誌委員、研修の非常勤講師などを担当させていただきました。

平成18年、愛知県看護協会に就職し、認定看護管理者教育課程を担当することになりました。当時、ファーストレベル・セカンドレベルを開講していましたが、「看護管理者の質が上がれば看護の質が上がる」ということでサードレベル教育課程を開講することになりその準備から始めました。平成21年にサードレベル教育課程を開講し、今年4回生が修了しました。サードレベル教育課程を修了することにより、日本看護協会が認定する認定看護管理者を受験することができます。愛知県の認定看護管理者は、現在103名となりました。これからも看護管理者に求められるマネジメント能力の育成に向けて、邁進していきたいと思っています。



学校法人藤田学園 法人本部  
経営管理部 経営改善室長  
(衛生学部 衛生看護学科 11回生)

桑原 浩

日本看護協会  
会長表彰を受賞して

さる平成24年6月に日本看護協会通常総会が千葉の幕張メッセで開催されました。みなさまご存じのことと思いますが、日本看護協会は会員数65万人超の日本最大の職能団体です。その総会の席におきまして、日

本看護協会会長表彰をいただきました。県の看護協会事業に貢献したことが受賞理由ですが、自身としては表彰に値するような活動をしたとは考えてもおりませんので、お話をいただいた時は大変ビックリいたしました。

私は、衛生看護学科卒業後、第一教育病院に就職し看護師として勤務して参りました。昨年4月に法人本部への異動を命ぜられ、10月より経営管理部において病院収益向上のための施策を考える業務等を中心に学園経営の健全化を図る役割の一端を担っています。

私が看護協会の役割を引き受けさせていただくようになったのは、当時の玉利玲子看護部長より、愛知県看護協会が主催する認定看護管理者研修ファーストレベルで講師をしないかと勧められたのが最初でした。当時私は、看護部内で看護システムに関する業務を担当しておりましたので、その経験を活かして看護師の情報管理について講義するようになった内容でした。それから10年ほど講師を続けさせていただき、これがきっかけでその後に地区支部長等の大役を引き受けることとなり、4年間協会の役員をさせていただきました。

昨年発生しました東日本大震災では、日本看護協会、愛知県看護協会からの要請を受け、藤田保健衛生大学病院からも多くの看護師が災害支援ナースとして参加しました。積極的な当院看護師の姿勢に協会役員の皆さんが敬服されていたのを記憶していますが、その際に看護副部長として県看護協会との連絡窓口を務めたことも県協会の印象に残り、今回の受賞につながったのではないかと思います。



今回の受賞は、多くの看護部の職員の方に支えていただいた結果であると感謝し、また私にそのような役割を与えていただいた上司に感謝いたしております。

私が仕事を行う上で、常に心がけておりますのは、自分に与えられた職責を精一杯全うしようという思いです。看護師として長く就業し、白衣を着ない生活に不安が多くありましたが、今はその生活にも慣れてきました。今まで以上に自身を叱咤激励し、いただいた表彰の名に恥じぬようまた卒業生として少しでも学園発展に寄与できますように今後も頑張らなければと考えております。



Japan Green  
Hospital 臨床検査科  
(短期大学 衛生技術科 34回生)

臼井真知子

青年海外協力隊での  
活動を終えて

2009年9月より2年間、JICA青年海外協力隊としてパラオ共和国で活動いたしました。パラオ共和国は太平洋のミクロネシア地域の200の島々からなる国で人口は約2万人、小さな小さな島国です。主食はタロイモと魚、パラオは世界で一番の親日国家だと言われ、第二次世界大戦中の日本の統治時代の影響から言語（医者のことをsenseiと言ったり、包帯（houtai）、痛み止め（itamidome）などパラオ語としてそのまま使用されています）や風習など今でも日本の文化が根強く残ります。パラオ国内に病院は一つしかなく唯一のパラオ国立病院で臨床検査技師として活動いたしました。パラオの国家予算は半分以上が他国からの資金援助で成り立っています。検査室内の検査機器も日本やアメリカから譲り受けた中古の医療機器ですが、適切なトレーニングを受けていない同僚達は機器の操作が解らず、使われていない医療機器がたくさんありました。パラオの温暖な気候のせいでしょうか、パラオ人はなるようになるさ、とてもんびりしてい

ます。異なる文化、言語で悪戦苦闘しながらも同僚達と協力し過ごした2年間はとても有意義で、また、日本の豊かさを再度認識することができました。

現在は、シンガポールの日系病院で臨床検査技師として勤務いたしております。同僚は、シンガポール人とマレーシア人。パラオ人とは対照的に皆仕事が多くせっかちです。超近代国家のシンガポールは日本よりも都会的ではありますが、近隣諸国はインドネシア、タイ、インド、など途上国に囲まれていますので、寄生虫卵に遭遇することもしばしばあります。

日本、パラオ、シンガポールと3カ国目の臨床検査室での勤務ですが、求められるものは世界中どこへ行っても同じだという事をととても実感しています。迅速で正確な検査結果の報告、患者様との良好なコミュニケーションを常に意識し、日本で培った精度管理業務の技術、パラオで培ったチャレンジ精神を元に、今後も日々知識の向上に努めたいと思います。

～同窓会への2通のメールより～

## 名誉ある “2011 Best of JBC” を受賞

東京医科歯科大学  
医歯学 総合研究科  
細胞生理学分野  
特任助教

(衛生学部 衛生技術学科  
29回生)

板倉千絵子



同窓会奨学金担当の先生方へ

御無沙汰しております。卒業生の板倉千絵子（旧姓：岸）です。

連絡が遅くなりましたが、おかげ様で本年度も、東京医科歯科大学医歯学総合研究科細胞生理学分野の特任助教として勤めさせていただいております。そのため、大学時にお借り致しました藤田学園同窓会奨学金返済を引き続き行わせていただきます。

近況報告ですが、主人の仕事の都合で8月からオリンピックの開催される英国のケンブリッジにあるMR

C laboratoryという研究所に、主人と一緒に留学し、数年間研究して参ります。しかし、藤田学園同窓会奨学金返済銀行口座はそのまま使えるので、返済終了まで、返済は続けます。イギリスでの住所や、メールアドレスの連絡先が決まり次第ご連絡いたします。

結婚、論文執筆、留学に追われ、学園新聞の執筆がますます先伸ばしになり、大変恐縮です。申し訳ありません。留学中の時間のある時等みはからい、お世話になった同窓会の方々へ近況報告、メッセージを送ろうと思っております。

今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。

丸田先生

こんなつたない文章でお許しいただけるのでしたら、お世話になりました学園の先生方、同窓会の皆様、同級生にお伝えする意味で、名前入りでかまいません。

できれば、先日の私達の論文が発表されたJBC論文の“2011 Best of JBC”に選ばれたことと兼ねて、文章にしてお伝えしたいところですが、現在はとうてい時間がとれず当分無理そうですので、このようなメールでのご報告でお許しいただけるのでしたら是非宜しくお願いいたします。

この“2011 Best of JBC”というのは、下のアドレスにあります。これは、2011年の1年間に4,000以上の投稿論文の中から20報だけ選ばれるとても名誉ある賞です。

<http://www.jbc.org/site/bestoftheyear/index.xhtml>

このアドレスの下から3番目の論文が私たちの論文で、これはファーストオーサーとセカンドオーサーはイコールです。また、この論文の表紙は私の電子顕微鏡写真で飾られました、とても思い出深い論文です。

本当にこのような名誉ある賞がいただけたのも、大学時代父を亡くした時に奨学金を貸してくださいました皆様のおかげです。これがなければ現在の私はないと、皆様に感謝しております。

皆様どうぞよろしくお伝えください。

板倉千絵子  
(旧姓：岸)







## 学会を 開催して (順不同)

## 第63回 日本気管食道科学会を 開催して

日本気管食道科学会事務局長  
耳鼻咽喉科学教室 教授  
(医学部 医学科 2回生)

櫻井 一生

日本気管食道科学会は耳鼻咽喉科、食道外科、呼吸器外科、消化器内科、放射線科など多くの診療科の医師が集まり、気管食道疾患の基礎的研究や診断・治療などの臨床的問題、最新の知見などの研究発表を行う学際的な学会です。藤田保健衛生大学耳鼻咽喉科学教室では、平成7年に故岩田重信教授が第47回の本学会を担当されておりますが、昨年の11月10日、11日の2日間、内藤健晴教授が学会長として第63回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会を名古屋東急ホテルにて開催いたしました。開催に当たり藤田学園同窓会から多大なご協力、ご支援をいただきましたありがとうございます。おかげをもちまして無事学会を終了することができましたので学会の概要をご紹介します。

一般演題は212題と多数の登録があり、5会場にて全演題口演形式で発表を行い、熱心な討論がされました。参加者総数は1,014名を数え、多くの会場で立見が出るほどの活発な学会となりました。特別企画としては、招待講演3題、シンポジウム2題、教育セミナー4題、ワークショップ6題、ハンズオンセミナー1題(2回開催)、ランチョンセミナー4題を行いました。招待講演1では「トロント大学における耳鼻咽喉科・頭頸部外科医の教育と訓練について」というテーマでPatrick Gullane先生(トロント大・耳鼻科)にトロント大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科の素晴らしいシミュレーションシステムの紹介をいただきました。

招待講演2ではJeremy Freeman先生(マウントサイナイ病院・耳鼻

科)に「浸潤性甲状腺癌の管理について」というタイトルで、甲状腺癌の気管浸潤の程度で選択する手術法の紹介をいただきました。招待講演3ではMyung-Whun Sung先生(ソウル国立大学)に「先天性気道狭窄について」ご講演いただきました。

ご援助いただいた藤田学園同窓会の皆様に心から感謝しております。同窓生の一人として藤田学園同窓会がより一層発展することを祈念しております。



## 第7回 日本臨床検査学教育学会学術大会を 開催して

大会長  
医療科学部 臨床検査学科長  
(短期大学 衛生技術科 3回生)

寺平 良治

平成24年8月22(水)～24日(金)に、名古屋国際会議場において、第7回日本臨床検査学教育学会学術大会を開催しました。本大会は日本臨床検査学教育協議会の主催で、会員は全国77の臨床検査技師を養成する教育施設の教員により構成されています。教員の資質向上、会員相互の情報交換、交流の場として、毎年過去37回実施されてきた夏季研修会を学会として発展させたものです。

第7回大会は、私が大会長を仰せつかり、藤田保健衛生大学が中心となって名古屋近辺の名古屋大学や信州大学などの養成校とともに、中部地区で初めて開催した大会です。また、本大会には毎回文部科学省と厚生労働省の後援がありますが、今回は多くの卒業生が所属する日本臨床衛生検査技師会(日臨技)からも参加して頂きました。

大会運営は、本学臨床検査学科が4年制大学として日本で2番目に設立され4,800名を越える多くの卒業生を輩出してきた実績の下、そのプライドをもって、教員と学生が一緒に

なって担当しました。特別講演には本学学長・黒澤良和先生をお迎えして「感染症と癌に対して抗体を如何に役立たせるか」との演題名でご講演をして頂きました。また、ご承知のように最近「臨地実習」と称する科目が卒業必須単位として卒前・卒後教育の橋渡しの大きな大変重要で教育効果の高い科目となっています。

そこで今大会では、特別企画としてパネルディスカッション「臨地実習指導者による臨床検査技師教育の検証」を、日臨技会員から4名(うち3名は本学卒業生)のパネリストをお迎えして行いました。

本学が担当する責任上、当初は正直不安もありましたが、蓋を開けてみるとお陰さまで参加者数、申込演題数ともに想定をはるかに越えて例年の1.5倍にも及び、活発な議論が展開されました。準備したメイン会場では参加者が一杯になってしまい、やむを得ず音声と画像を第2・第3会場とネットで結んで参加してもらった程でした。

参加者の中には、全国の教育機関

で教鞭をとっている本学出身者も多く、大会には本学学生も参加していたことから、会期中に藤田学園同窓会交流会も開催するなど楽しい時を過ごしました。

こうして本大会が盛会裡のうちに無事閉会することができましたのも、長い本学の歴史を紡ぎ実社会で頑張っている多くの卒業生のお力に因るものと改めて感じざるを得ません。同窓会からも多大なご支援も賜り、心からお礼申し上げます。本大会は今後も全国各地で開催されますので、その折には会場で卒業生の皆様方とお会いできればうれしい限りでございます。

以上簡単ではありますが、関係各位の皆様方にご報告とお礼を申し上げます。





## 臨床検査学科の学生と臨床検査技師教育施設で活躍している諸先輩との交流会

医療科学部 臨床検査学科  
准教授

大橋 鉦二

(衛生学部 衛生技術科 12回生)

平成24年8月22、23、24日に「第7回日本臨床検査学教育学会学術大会」が名古屋国際会議場で開かれました。準備段階から実務のほとんどは本学の教員により執り行われ、過去にないほどの参加人数と発表演題数を記録した大会でありました。また、実行委員として臨床検査学科と大学院保健学研究科の46名の学生の献身的な協力のお陰で、大きな問題もなく無事に終わらせることが出来ました。

本学の卒業生のうち、大学などの教育機関で臨床検査技師の育成に携わっている方々も多く、それぞれの専門領域の学会などでは会う機会もありますが、この学会は全国の臨床検査技師教育施設の教員が会員となる学会であり、領域を超えて臨床検査技師育成に携わる者が一堂に集まることの出来る数少ない機会でもあります。また何よりも実行委員として参加している本学学生にとっては、他大学などの臨床検査技師教育施設で活躍している諸先輩と交流できる絶好の機会であることから、学

会会期中に本学学生と卒業生との交流会を企画致しました。

会は中日の8月23日に開催され、最初に臨床検査学科教授の丸田一皓先生の挨拶を頂き乾杯の発声の後、用意した軽食と飲み物で歓談が始まりました。別会場ではまだ学会プログラムが実施されている中で行ったために参加者は入れ代わり立ち代わりとなりましたが、久しぶりに再会する同窓生同士は話が尽きることもなく各所で談笑が入り混じり盛会となりました。

特に本学学生にとって外部で活躍されている卒業生とはほとんど面識がないため、お互いの親交を深めるきっかけとして学生に向けての自己紹介とアドバイスを外部施設の先生方お一人ずつから頂きました。京都大学大学院教授の齊藤邦明先生を最初に神戸常磐大学教授の坂本秀生先生、岐阜医療科学大学教授の高崎昭彦先生などから順次お話を頂きました。「自分のやりたいことを一生懸命にやる。結果は自然についてくる。」「離れて分かったことは、藤田

保健衛生大学がいかに恵まれた環境にあったかということ。誇りに思っているが、これだけ大きな学会がスムーズに進んでいるのは学生さんを含めた藤田保健衛生大学の結束力によるもの。」などの生の声は学生の心にきっと響いたことと思います。また学会には外部の大学院修士課程に進学した卒業生も発表のために何人か参加しており、彼らが行っている研究内容の紹介や就職内定先の報告などを聞くことが出来ました。将来の事を考える良い刺激となったと思います。自己紹介が済んだ後も長い間歓談が続き、本学学生と卒業生との交流は確実に深まったことを感じました。

同窓会からの援助が無ければ、このような盛会にはならなかったと思います。深く感謝申し上げます。



大会長  
相山女学園大学 看護学部  
看護学科 成人・老年看護学 教授  
(衛生学部 衛生看護学科 10回生)

柴山 健三

## 第14回日本看護医療学会 学術集会を開催して

このたび、平成24年9月8日に「看護職とジェンダー ―男性看護職と女性看護職のさらなる協働のために―」をテーマに第14回日本看護医療学会学術集会を相山女学園大学看護学部棟で開催致しました。相山女学園大学看護学部は平成22年4月に開部し、本学部の看護教員としては、全国レベルの学術集会大会長を初めて務めることになりました。

看護師は2002年3月より看護婦・看護師から名称変更され、2006年に名称独占されました。それまで、同

じ仕事をしながら、女性は看護婦、男性は看護師と性別で名称を区分していた数少ない国家資格でした。

1980年頃当時、全国の看護系専門学校では、看護師は精神科勤務を前提としたカリキュラム(母性看護学実習などが無い)でした。看護系大学が少ない時代に、既に名古屋保健衛生大学(現藤田保健衛生大学)では、看護婦(士)課程を男女同一のカリキュラムという極めて稀な大学でした。今カリキュラムを作る立場になり、改めて故藤田啓介総長の信長的類稀な先進性に驚かされます。しかしながら、看護師の雇用は、当時極めて厳しく、1990年頃でも愛知県内のある有名総合病院では看護師を雇用していませんでした。1989年指定規則の変更により、男女同一カリキュラムになり、1994年によりやく保健士が誕生しました。もちろん、看護系大学を卒業した男性は1994年に保健士が誕生するまで、行政への雇用はありませんでした。

現在看護系大学に入学する男子学生は約10%程度を占め、総合病院の就職応募に女性看護師を指定することはなく、男性の看護部長や保健師

が活躍する時代になっております。パネリストとしてお迎えした片岡笑美子先生(名古屋第二赤十字病院看護部長・副院長)、毛利隆先生(岐阜県総合医療センター看護師長・名古屋保健衛生大学衛生学部看護学科第10回生)、徳井秀昭先生(尾張旭市健康福祉部健康課)より、男性看護師・保健師の処遇や業務内容等の現状が報告されました。出口睦雄先生(愛知さわかみ看護短期大学講師)より女性看護師と男性看護師の満足度などを調査した研究報告がありました。男性看護師と女性看護師および男性保健師と女性保健師の新しい協働を活発に議論が行われました。また、ジェンダー研究の藤原直子先生(相山女学園大学教授)より、保育の現状から看護への提言をいただき、参加者より大きな好評を得られておりました。

本学術集会には、臨床看護師、看護教員、看護学生などが多数参加し、盛会に無事閉会することができました。藤田学園同窓会より補助金を賜り厚く御礼申し上げます。また、藤田学園同窓会の益々のご発展を心からお祈り申し上げます。





## 同窓会 報告 (順不同)

全国から60名の  
仲間が集合!!

### 藤井直子教授就任祝賀会 & 医学部4回生クラス会

街の木々が黄色に染まり所々に朱がさす秋の平成23年11月5日(土)、同級の藤井直子さんが坂種病院放射線科の教授に就任されましたので、祝賀会兼クラス会を開催しました。

4回生にとって卒後30年で初めてのクラス会。

懐かしさも余ってか北は山形、南は宮崎から60名の仲間が集まってくれました。皆外観は経年変化(劣化?)しましたが、貫禄や風格がついて地区の医師会長や各種委員を務める者等々色々でした。

しかし、声は全く変わりなく会場は久しぶりの邂逅に固い握手やハイタッチ、ハグで一杯でした。そして乾杯の後は学生時代に戻って昔話や近況に花が咲き、腹筋が痙攣する程笑いました。

そんな楽しい時間はアッと言う間に終わり殆どの仲間は別れ難く2次会になだれ込み、夜深くまでお酒の酔いと共に長い長い空白を埋めるひと時を過ごし、4次会まで街に繰り

出したり、徹夜麻雀に向かう者もありました。

今現在それぞれが各地域で色々な医師や人と交わり、各々の環境を生きていますが、やはり学生時代の同期は藤田OB&OGの同根で心許せる一番良い仲間です。

同窓会の皆様もクラス会を開催されると記録に残る、そして記憶に残る青春時代を再確認出来、翌日からの仕事の活力になる事請け合いです。

最後に開催の切っ掛けを作った藤井教授の御活躍を祈り、遠方から集ってくれた仲間にあだ感謝の一言を捧げます。

**追記** この会を計画した直後、東日本大震災が発生したので会場で募金箱を回し、福島原発近くで産婦人科を開業している同級の市川君に託しました。

(世話人:金森、安保、加古、志水)



### 衛生技術学科 24回生同窓会

3年後の卒後20周年の  
再会を誓う!!

平成24年3月10日、名古屋市に於いて、衛生技術学科24回生同窓会を開催しました。経緯は、卒後20周年を3年後に控えていることから、その前哨戦的な位置づけとして急遽開催に至りました。急な話にも関わらず、長村洋一先生、丸田一皓先生にご参加頂き、38名の同級生が懐かしい顔を合わせることができました。

私は、事務局として多くの同級生の協力を得ながら情報収集をはじめとする事務仕事をさせて頂きました。一部では“悪徳商法?”と疑われたこともあったようですが、大変嬉しい事もありました。皆がアラフォー(around 40)という名の“荒野”を、多事多端、波瀾万丈・・・に百人百様、元気に突っ走っていることを改めて認識することが出来た事です。私にとって皆の突っ走りぶりには、肝っ玉を“ビビッ”と響かせる力があり、激動のアラフォーを乗り切る勇気、元気を与え、さらに今後の人生において強烈な刺激になったことは間違いありません。その証拠に私は開催から半年経った今

でもこれらの刺激が大きな励みになっています。

平成27年にはいよいよ卒後20周年を迎えます。その折には同窓会を必ず開催します。沢山の方々にご参加頂きこの感激を是非とも共感して頂きたいと切に願っております。

皆さん3年後に元気でお会いしましょう。私も皆に負けない様に自己研磨しつつ“荒野”を突っ走ります。  
"smile and be happy!"

(文責 松田親史)





34名が全国から  
長良川に集合!!

## 医学部5回生 卒後30周年記念同窓会

医学部5回生の卒後30周年記念同窓会を平成24年3月24日、25日の二日間、岐阜市長良川温泉「十八楼」で行った。年度末の多忙な土曜午後の集合にも拘わらず、遠方は埼玉県から来てくれた同窓生夫婦や、午前の診療終了後直ちに自家用車で駆けつけてくれた人もいた。立派な体形になったり、頭髮が薄くなったり、スリムな美女になって誰だかわからない人もいて、ロビーでウエルカムドリンクを飲みながら皆の到着を待つ間にすでに会は盛り上がった。

宿の近隣は古い商家が並んでいて、皆揃ったところでボランティアの案内で散策観光した。18時開始の総会には34名が出席し、最初に物故者へ黙とうを捧げた後、慶弔費や今後の会の運営、連絡手段、役員の選出、次の開催場所・担当幹事等について協議した。記

念撮影の後、還暦を迎えた年長者の乾杯の発声で懇親会が始まった。各人が近況を報告したり、岐阜の舞妓さんと翳間（ほうかん）を交えてお座敷芸をも堪能した。二次会は20名が柳ヶ瀬のバーに集結し学生に戻ったように盛り上がった。23名が宿泊し、翌日のツアーは雪が舞う中、金華山ロープウェイ登山・岐阜城・岐阜大仏と観光および陶器創作体験を行った。今後も日本全国に会場を移して2～4年に1回会えるのが楽しみである。次回は京都で会いましょう。

(文責 高木寛治)



次回15周年には卒業生  
100%の出席めざす!?

## 藤田保健衛生大学 看護専門学校 3年課程第1回生 卒業後10周年記念同窓会

去る6月23日（土）、名古屋ガーデンパレスホテルにて藤田保健衛生大学看護専門学校（平成15年3月卒業）3年課程1回生の卒後10周年記念同窓会を開催いたしました。案内状を送り、なかなか出席者からの返信が来ず、正直、参加者が集まってくれるかどうかやきもきしておりましたが、卒業生・教職員合わせて54名の参加となり賑やかな同窓会となりました。

受付を済ませ、懐かしい顔に会えるやいなや、いろんなところで近況報告や思い出話に花が咲いていました。学生時代の面影はあるのですが、雰囲気も変わっていて受付では「変ったね〜」「変わらないね〜」という声が聞こえてきました。

開催の挨拶後は学生生活を振り返り、DVDで思い出のワンシーンを上映。入学式から始まり、オリエンテーション、病院実習、授業風景、卒業式までの写真のワンカットごとに笑いや歓声が興っていました。その後はbuffet形式での会食。それぞれが食事をしながら、思い出話やお互いの近況などを話しました。そして、教職員への花束贈呈。先生方の近況報告もしていただきました。

ビンゴゲームでは、景品をもらう際に一人一人近況報告をしてもらいました。卒業して

早10年、仕事を続けステップアップを図り専門看護師・認定看護師を取得や目指している人や子育て真っ最中の人、家庭と育児と仕事の三足のわらじをはき頑張っている人など、それぞれの10年という年月を感じさせました。入学時は看護師という目標に向かい、ともに勉強をしてきましたが、就職し、それぞれがまた新たな目標に向かって歩んでいることをとてもうれしく思いました。あっという間に2時間という時間は過ぎてしまいましたが、みんな、まだまだ話がつきない様子でした。「また同窓会やりたいね」という言葉があり、幹事としてはとてもうれしい言葉を頂きました。

今回の15周年記念同窓会では今回欠席した卒業生も参加していただき、出席率100%の同窓会を開催できるようにしたいと願っております。

文責 水谷（旧姓 村上）





人生の宝物“学友”  
と卒後4回目!!

## 衛生学部 衛生技術学科 10回生 同窓会

医療科学部 臨床検査学科  
秋山秀彦

平成24年6月30日、卒業後32年、4回目の同窓会を名古屋栄、東急ホテルで開催しました。遠くは沖縄からも2名の参加があり、総勢41名のなつかしい顔が揃いました。日頃の仕事、管理職の悩み、孫の自慢など話は尽きることはありませんでし

た。また、就職の件についても、何件か依頼されました。同じ大学で学んだ学友は、人生の宝物です。同級生のなつかしい姿を見て、元気をもらいました。次は、4年後の開催予定です。計画通りであれば、新しくなった新棟にみんなを呼んで、大いに自慢できればと今から楽しみです。どうか皆さんも、同窓会を開催し、藤田学園卒業生の絆を深めて下さい。



35名の同窓生が  
学生時代に“タイムスリップ”

## 衛生学部 衛生技術学科 17回生 卒後25周年 記念同窓会

平成24年9月8日（土）、名古屋ガーデンパレスで衛生学部 衛生技術学科 第17回生 卒後25周年記念同窓会を開催しました。

これまで、卒後10年、20年と同窓会を開いてきました。今回は25周年・四半世紀を記念しての会です。全国各地より35名の卒業生が集いました。

若くしてご逝去された3人の同級生（浅田宏胤君、石原理恵さん、川崎卓夫君）を偲びつつ、幹事代表の挨拶、柴田智生君の乾杯の音頭で開会しました。中には今回が初めての同窓会参加という参加者もあり25年ぶりの再会を喜びました。体重がおよそ二倍になった人、頭の上がすっかり寂しくなった人など外見はすっかり変わってしまった人が多い中、25年前とほとんど変わっておらず羨望の眼差しで見られていた人もいました。話しが始まると、学生時代に“タイムスリップ”です。「今」を忘れて学生時代にに戻り、楽しかった思い出や辛かった時の話、あんな事、こんな事・・・いろいろな話に花が咲きました。

会の半ば過ぎから一人ずつ近況報告を行い

日時：平成24年9月8日  
場所：名古屋ガーデンパレス 2階（鼓）  
参加者：35名

ました。検査室でバリバリ働いている者、全く別の分野に行ってしまったけどそこで頑張っている彼、育児と仕事をしっかり両立しているスーパーお母さん、専業主婦など卒業後に歩んできた道はいろいろですが、それぞれの職場・家庭での活躍ぶりを聞くことができました。

母校と旧友を思いやり、同窓会に出席できる幸せを実感しつつ、次回、5年後の卒後30周年記念同窓会に元気で出席できるよう祈念し、閉会しました。

文責 堀場・平松（木全）







学園祭実行委員長  
医学部3年

宮国 博也

# ひとつになろう 藤田の輪

今回の学園祭はFUJITA FESTIVAL 2012 ～ひとつになろう藤田の輪～をテーマに藤田学園の学生が一丸となり、日ごろ学生生活で学んだことを生かし、病院の患者様や地域の方々など様々な方に楽しんでいただけることを目標に、日々準備をしてきました。

当日は天候にも恵まれ、最高のコンディションで学園祭を迎えることができました。今年は例年とは違ったイベントも企画いたしました。来場された皆様や先生方の協力もあり、どのイベントも大成功を収めることができました。

私たち学園祭実行委員会一同はこの学園祭を成功させるために、約7ヶ月の間じっくりと準備を進めてまいりました。初めはお互いの意見が合わなかったり、スケジュールの調整が難しかったこともありましたが、学園祭をより良いものにしたいという共通の目的のために、最終的には皆がひとつになり活動することができました。

私自身、実行委員長を務めることで、様々な体験をし、多くのことを学ぶことができました。特に、周囲の仲間と協力して物事を進めることの大切さを実感いたしました。同じ目標に向かって仲間と協力するという経験は将来医療人となった際にも生きるものと思います。

最後になりましたが、実行委員会を代表して、守衛室の方々、施設課の方々、指導をしていただいた先生方、学園関係の方々、スタッフの学生さん、そしてご来場いただいた方々にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



球技大会 バスケットボールクラブ対抗戦



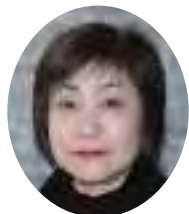
茶道部実演会

少林寺拳法模範演技





## いこいの広場コンサート 平成23年度の活動を 振り返って



医療科学部  
特任教授  
(音楽療法)  
**松田真谷子**

「いこいの広場コンサート」は平成24年1月21日で第94回を迎え、平成23年度の全活動を終了した。例年通り夏休みと春休みを除き、毎月第3土曜日を中心に月1度のコンサートを開いてきた。

いこいの広場コンサートは1回のコンサートに2団体が出演する。今季特筆すべきことは、全9回のうち6回のコンサートに学内の7団体が出演したことである。

①オーケストラのフジタ・ヘルス・ユニバーシティー・フィルハーモニーは毎年出演している。バレエ音楽「くるみ割り人形」より“花のワルツ”をはじめ「川の流れるように」「上を向いて歩こう」まで、よく知られている曲を演奏し観客を楽しませてくれた。

②学内のもう一つの楽器の演奏団体「Twilight Stars joint with Wannabies」はビッグバンドジャズのグループ。部員も多く、延べ50名

ほどがステージに登場し、全員合奏は圧倒的な迫力がある。毎年ビッグバンドや大編成の吹奏楽を取り入れているが、これらは大変人気が高い。

③混声合唱団「コール・フロッシュライン」も毎年出演してくれている。本年はとくに素晴らしかった。

④「見てのお楽しみ」の不思議で楽しい2名のマジックは、お客様から拍手喝采であった。

⑤「第87回」には、NICU親の会リトルエンジェルが親子で出演し、「おもちゃのチャチャチャ」「幸せなら手をたたこう」「世界に一つだけの花」を演奏し、未熟で生まれた子供たちが、元気に成長している姿をわたしたちに見せてくれた。

⑥「第93回」には、藤田学園学生と教職員と共にということで、学生さんから教授・職員・患者さんまで、学内の多くの人たちが出演してくれた。

\*アセンブリフォークギター&フォークソング班は毎年出演している。班活動で覚えた「空も飛べるはず」を演奏。

\*藤田看護師バンドはJ-POPの「いつかのメリークリスマス」「3月9日」を、ギター・ボーカル・ベース・ピアノ・ドラムの5人で熱演。

\*オーボエとピアノのデュオは「アヴェ・マリア」「G線上のアリア」を演奏、美しいメロディーで聴きほれた。

\*「巨神ゴーク」エンディングテーマ“君を信じてる”は歌のソロで熱唱、会場を沸かせた。

\*バイオリンとピアノのデュオは「チャルダッシュ」「愛のあいさつ」を、見事な演奏で聴かせた。藤田学園に素晴らしい新人が登場した。

\*オールディーズというバンドは「Stand by Me」「世界に一つだけの花」をギター・ボーカル・ピアノ・ベース・ドラムの5人で演奏、白熱したステージだった。

⑦クリスマスのビンゴゲームはうまく工夫されており、会場は大いに盛り上がった。

外部からの出演者も、愛知県立芸術大学の学生さんによる本格的な弦楽四重奏をはじめ、名演だったピアノ連弾、選曲がよかった女声コーラス、感動を呼んだ大編成の吹奏楽、衣装と振付が素晴らしかった民謡舞踊、元気を与えてくれたハワイアンダンス、話し手と人形が瓜二つで不思議な感じを受けた腹話術、おもしろかった愛知教育大学学生による落語、と多彩な内容で大いに楽しませてくれた。

この稿の最後に書いておきたいことがある。それは「藤田学園同窓会」と「ユリカ株式会社」が、「いこいの広場コンサート」の開催に関して、立ち上げの最初から一貫して年間120,000円の補助をし、後援を続けて下さることである。このこと本当に感謝している。ここにそのことを皆様にご報告し、感謝の意を表する。



## お礼状の紹介



平成24年11月吉日

藤田学園同窓会 会長  
近 松 均 様

豊明市制40周年記念事業 第九歓喜の歌演奏会  
実行委員会 会長 中 嶋 静 夫

豊明市制40周年記念事業第九歓喜の歌  
講演会への協賛のお礼

この度は、私たち豊明市制40周年記念事業第九歓喜の歌講演会の企画に協賛金のご恵与をいただき有難うございました。衷心よりお礼を申し上げます。

ご協賛いただきましたお志を、しっかりと受け止めて、豊明市制40周年を祝う催しとして、12月23日の演奏会に向けて、関係者一同、特に「藤田学園混声合唱団コール・フロッシュライン」と「豊明市制40周年記念合唱団」は、一層練習に励み、お互いの連帯と交流のなかで精進をして、必ずや素晴らしい演奏会にすべく、努力をしまっている所存でございます。貴会におかれましても、この演奏会の開催に今後とも格別のご理解とご支援を賜りますようお願い致します。

なお、この度のご協賛のお礼に、演奏会へご招待をさせていただきたいと存じます。わずかな枚数で恐縮ですがお納めくださると共に、演奏会にぜひお出でいただきますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、貴会の益々のご隆盛を心からお祈りし、お礼のご挨拶といたします。

### 医学部部会（藤医会）

藤田学園同窓会様には、日頃より藤医会活動に多大なるお力添えを頂きまして誠にありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。

今年度、藤田学園では、デリバティブ損失も関連した大変な時期を乗り越えて、50周年記念事業の再開に至りました。幸い、デリバティブ契約すべてが解約、それらを精算したことによる損失も計上・報告され、今後は、学内スタッフの皆様の引き続きのご奮闘は勿論、卒業生の先生方からのご協力により、「前進あるのみ」という状況まで回復いたしました。

一方、今年の医師国家試験におきまして、新卒：98%（全国8位）、全体：93.6%（全国26位）と、昨年と同様、良好な成績でありました。これも、教育現場に携わる先生方、事務部の方々に心から感謝する次第です。

こうして嵐のような改革が落ち着きつつある今、ふと周りを見渡してみますと、果たしてこのまま突き進むだけで、本来の藤田の姿を守ることができるのだろうか、大きな不安を感じているのも事実であります。どうしても利益を優先しなければならない学園経営と、医療・教育という利益だけでは評価できない、スタッフの方々の骨身を惜しまぬ、多大な犠牲的精神、愛校精神で成り立っている現場の実情は、「病院講師」という役職が島先生のもとで出来上がった昔と変わりありませんし、更に大きな犠牲的精神が要求されているのかもしれません。これは、おそらく医学部だけの問題ではないと予想いたします。そうした現場の心を重んじ、モチベーションを維持し、高め、その上で、経営理念を向上させることが大切であることは言うまでもありません。

「我ら、弱き人々への無限の同情心もて、片時も自己に驕ることなく、医を行わん」

この言葉を決して忘れず、藤田の心を忘れず、進化していった頂きたいと念じています。

既に学園側からは、50周年記念事業の一環としての寄付金事業が再開されております。先述の理念を守るためには、卒業生も学園に対して意見を言える立場にいたらなければなりません。応援団が常に見守っていることを学園に知ってもらわなければなりません。そして、そのためには、「寄付金」という形でその気持ちを示すのも有効な形の一つであり近道になります。卒業生の方々には、既に、過去の寄付金事業においても、多額のご寄付を頂いており、感謝の気持ちに堪えませんが、新たな50周年事業の始まりの再一步として、本紙面をお借りして、一人でも多くの卒業生の方々に寄付金事業へのご協力を頂きますよう、再度お願い申し上げます。

藤医会では、支部の先生方に藤田学園の現状や医学部の状況をご理解頂けるように、一つでも多くの支部にご挨拶に伺えるように準備を続けております。昨年度は、例年お世話になっております名古屋支部、愛知県藤医会、三重県北勢支部との交流は勿論、新たに奈良県支部・佐賀県支部・岡崎支部・東三河支部を訪問させて頂きました。今年4月以降は、愛知県藤医会、九州（宮崎）、千葉県支部、岐阜県支部総会、知多半島支部会、東名古屋支部会への参加をさせて頂きました。どうか、他の支部の先生方におかれまして、支部会開催の折には、藤医会にお声掛けをお願いいたします。

末筆になりますが、皆様のご健康を心よりお祈りしてご挨拶・お願いに代えさせて頂きます。

### 医療科学部

医療科学部部会では、藤田学園同窓会を全面的にバックアップしています。  
本年度の主な活動は以下のようです。

#### 1. 新卒業生、既卒者および学生名簿の管理

新卒業生の勤務先および新住所の記載入力、既卒者の住所や勤務先の変更など、藤田学園同窓会の名簿委員会と協力して行っています。

同級会開催の予定がありましたら、名簿、宛名タックシールなどを印刷し、提供いたします。ぜひ、お知らせ下さい。

#### 2. 新卒業生への卒業記念品の贈呈

毎年、新卒業生に卒業を祝って印鑑付ボールペンを贈っています。今回も、好きな字体で注文できるように、工夫しました。

#### 3. 医療科学部同窓会のホームページ作成を行う事としました。ただいま、依頼業者を選定中です。

#### 4. タイ国コンケン大学医療科学部と本学医療科学部の国際交流の賛助を行いました。

#### 5. 総会の開催

平成24年10月19日（金）18時30分より豊明市内「寿司レストゆたか」にて平成23年度の総会・懇親会を開催しました。多数の卒業生の方々に出席して頂きました。お礼申し上げます。



## 短期大学

今年度の藤田保健衛生大学短期大学部会活動としては、10月13日13時から旧短期大学校舎（現 医療科学部8号館）にて、短期大学同窓会総会及び懇親会を開催しました。総会では、12名の参加者があり、会長の瀬川善樹氏（3回生）の挨拶の後、以下の事項が審議、承認されましたので報告致します。

1. 平成23年度活動・会計報告
2. 平成23年度会計監査報告
3. 平成24年度予算
4. 平成24年度新役員
5. 平成25年度藤田学園同窓会理事4名の再任
6. 同窓会ホームページのリニューアル

短期大学の閉校に伴い、部会活動も以前に比べて活発ではありませんが、来年1月にはホームページを藤田学園同窓会の援助を受け新しくします。また、懇親会では閉校10、20…周年記念同窓会等の企画案も出ていましたので、決まりましたらホームページ等で皆様にご案内したいと考えています。その折には、多数の卒業生の方々のご参加を、お待ちしております。

## 看護専門学校

看護専門学校部会では、藤田学園同窓会を全面的にバックアップしております。主な活動は次の通りです。

新卒業生、既卒者及び学生名簿の管理を藤田学園同窓会名簿委員会と協力して行っております。（住所変更、勤務先変更の際は是非お知らせください。）また、藤田学園同窓会奨学基金への資金援助や新卒業生への卒業記念品贈呈、教育教材寄贈などです。

平成24年7月14日（土）に看護専門学校同窓会総会を開催いたしました。次年度は、平成25年4月20日（土）13時から、看護専門学校同窓会総会を藤田保健衛生大学看護専門学校にて開催予定です。同窓生の参加をお待ちしています。

三年課程では、この春に10回生の46名が卒業し、そのうちのほとんどが藤田学園関連の病院で勤務しています。そして、第13回の新入生を迎えました。

看護専門学校では、図書室の充実化が図られております。同窓生の図書の利用も歓迎しております。是非ご利用ください。

卒業生の動向について同窓生にお知らせしたいと思います。同窓会等を行われた際には、是非お知らせください。あけぼの杉に掲載したいと思います。よろしく、お願いいたします。

連絡先：藤田保健衛生大学看護専門学校事務局  
（電話番号0562 - 93 - 2593、  
FAX0562 - 93 - 9394）

## 名 簿

平成24年9月に、旧アセンブリホール跡地に低侵襲画像診断・治療センターが竣工いたしました。既に、開所してから1ヶ月を過ぎ、大学病院の中核として本格的に稼働しております。また、大学病院新棟建設の前段階である立体駐車場の建設が急ピッチで進んでおります。メイン駐車場が第1駐車場から立体駐車場へ移行しますと、第1駐車場跡地でいよいよ大学病院新棟の建設が始まることになります。また、生涯教育研修センター2号館建設の企画も少しずつではありますが、具体的になってきております。学園の発展がますます期待されます。

さて、平成24年3月の卒業生数が602名で、同窓会員数は延べ26,571名になりました。一方で、住所不明者数の合計は4,277名で、全会員数の16.1%です。物故者は188名です。名簿委員会としては、各学年の幹事の方々に、10年、20年などの節目の年に当たるクラス会などの行事を利用して、同窓生名簿の調査・訂正をお願いしております。しかしながら、一旦郵便物が届かなくなりますと、なかなか新住所が判明することがなく数年が経過することとなります。その結果、住所不明者数が累積することとなります。もし、会報が届いていないという同窓生がお近くにいらっしゃいましたら、同窓会ホームページより変更届を登録していただくようお願いいたします。

藤田学園同窓会では「株式会社サルト」に委託して名簿管理を行い、2013年8月に名簿発行を予定しております。この「あけぼの杉」と共に、皆様の住所と勤務先の確認と名簿掲載情報の確認承諾、名簿購入・広告掲載のお願いが同封されております。必ずご確認ください、必要事項をご記入の上で返送して下さい。関連して、名簿発刊作業のための調査の際に、個人情報保護の観点から様々なご意見とご提案をいただいております。これらのご意見・ご提案を真摯に受け止め、会員の皆様はもちろん、ご家族様また職場の方々に迷惑の掛かることのないよう、「藤田学園同窓会個人情報保護規程」に基づき、細心の注意を払い、名簿管理を行いたいと存じます。懐かしい顔の見える同窓会名簿の管理と発行を目指しております。皆様のご協力をお願いいたします。

〒470-1192  
愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98  
藤田学園同窓会事務局  
藤田学園同窓会名簿委員会  
電話・ファックス：0562-93-5674 e-mail：dosokai@fujita-hu.ac.jp



## 同窓会会員の皆様へ 都道府県支部を設立 しませんか！

藤田学園同窓会会員の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。全国の職場では、たくさんの藤田学園同窓生がご活躍のことと存じます。ところが、年齢が離れ、さらに職種が異なりますと、なかなか藤田学園同窓生として知り合う機会は意外に少ないのではないかと想像いたしております。

そこで、同窓会からの提案です。皆様の都道府県単位で、同窓会支部を立ち上げませんか？同窓会支部活動を通じて、世代と職場の垣根を越えた親睦を深めることができれば、お互いの情報交換のみならず、母校の旧知を訪ね、新しきを知る上で、大いに役立つのではないのでしょうか。

つきましては、同窓会支部の設立に際し、わずかばかりではありますが支援をいたします。支部設立を計画している幹事さんは、申込書をダウンロードし、必要事項を記入し、必要書類を添付し、同窓会宛にお申込みください。

また、過去に設立・活動していたが、最近は活動休止状態である支部の再活動に際しても支援を行いますので、同様にお申し込みください。

### 1. 支援の内容

#### 1) 支部設立費

金100,000円を上限とし、設立時の支部規模に応じて調整します。

2) 案内状を発送するための「宛名シール」

### 2. 支部設立のための手続き

1) 支部設立趣意書※(様式自由、発起人5名の署名と捺印)

2) 支部会則※(ご連絡いただければ、簡単な会則の見本を差し上げます。)

3) 支部会員名簿※

4) 支部懇親会等行事企画書

※は必須

### 3. 支部設立後に提出する書類

1) 支部設立援助金領収書※

2) 「あけぼの杉」への投稿記事※(400～600字)

3) 支部設立式および設立記念懇親会などの集合写真

※は必須

### 4. 申込み先

〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98

藤田学園同窓会 宛

Tel & Fax: 0562-93-5674

## 同窓会幹事の皆さんへ 周年記念同窓会を応援 します！

藤田学園同窓会では、卒業後10年、20年、25年、30年、40年、50年を迎える同窓会の企画に対して、わずかばかりですが支援をいたします。同窓会を計画している幹事さんは、申込書を同窓会ホームページよりダウンロードし、必要事項を記入し、必要書類を添付し、同窓会宛にお申込みください。

### 1. 支援の内容

1) 運営費として 上限100,000円(参加人数・企画規模に応じて調整します)

2) 案内状を発送するための「宛名シール」

### 2. 申込書に添付する書類

1) 周年記念同窓会企画書

①出身学校、学部、学科、専攻、回生(卒業年)、幹事名(主、副)

②同窓会名(例:医学部〇〇回生卒業後10周年記念懇親会)

③開催日時、開催場所(会場名、住所、電話番号など)

④予定参加者人数

など、同窓会の概略が分かるように作成してください。

### 3. 同窓会後に提出する書類

1) 「あけぼの杉」への投稿記事(必須、400～600字)

2) 周年記念同窓会の集合写真

3) 周年記念同窓会の領収書コピー

### 4. 申込み先

〒470-1192

愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98

藤田学園同窓会 宛

Tel & Fax: 0562-93-5674

## ご採用のお願い

藤田学園同窓会では学校法人藤田学園キャリア支援課と連携し、本学学生と卒業生(同窓会会員)を対象に就職活動支援を行っております。厳しい経済状況の中でのご採用計画も大変ご苦勞の多いことと存じますが、何卒本学学生と卒業生のご採用を宜しくお願い申し上げます。

### 1. 「求人申込書」について

求人申し込みは、本学所定の「求人申込書」をご利用いただくか、貴施設で作成されました「求人票」でも結構ですので、ご送付頂ければ幸いです。

す。

※ E-mailあるいはFAXにてお申し込みいただければ、医療科学部と看護専門学校の紹介を載せたパンフレットとともに至急郵送させていただきます。

※ 必ず貴施設名(団体名)・所在地・電話番号・ご担当部署名・ご担当者名及び求人申込書希望の旨を明記して下さい。

※ 本学所定の書式は、プリントアウトしてご利用下さい。(Excelファイル)

◎病医院、検査・健診センター様 本学所定の「求人申込書」

◎企業、研究所様 本学所定の「求人申込書」

### 2. 「施設見学・説明会案内」について

本学所定の様式はございませんので、貴施設作成のものをご送付下さい。なお、掲示スペースの関係上、様式はA4判でお願い申し上げます。

### 3. 「貴施設資料」について

貴施設カタログ・パンフレット等、資料がございましたら、1部「求人申込書」とともにご送付下さいますようお願い申し上げます。

### 4. 「採用内定」について

採用内定のご通知は、本人とキャリア支援課宛に文書でお送り下さいますようお願い申し上げます。

### 5. 藤田学園同窓会事務局及び

#### キャリア支援課窓口について

就職に関するご連絡は、求人、求職を問わず、全て下記(同窓会またはキャリア支援課)にお願いいたします。

〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98

### 藤田学園同窓会

E-mail: dosokai@fujita-hu.ac.jp

電話 0562-93-5674 (直通)

FAX番号 0562-93-5674

### 学校法人藤田学園 キャリア支援課

E-mail: shushoku@fujita-hu.ac.jp

電話 0562-93-2514

・9480 (直通)

FAX番号 0562-93-7211

### 受付時間 月～金曜日

午前8時45分～午後5時

土曜日 午前8時45分～12時30分

休業日 日曜・祝祭日・学園指定の休日(6月11日、10月10日)

冬季休業日(12月29日～1月3日)

※キャリア支援課は医療科学部8号館 1階です。

# 同窓会総会報告



## 第33回 藤田学園同窓会総会議事録

日 時：平成24年10月20日（土）15：30～16：15  
場 所：ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋5F  
ローズルームI  
出席代議員：17名（委任状26名）計43名／50名  
司 会：医療科学部・丸田  
開会に先立ち、志半ばにして逝去された同窓生と藤田学園教職員に対し  
黙祷が捧げられた。  
Ⅰ. 開会の辞（専門学院・沖田）  
Ⅱ. 会長挨拶（医学部・近松）  
Ⅲ. 議長選出  
定款16条に則り、議長に近松会長が選出された。  
Ⅳ. 代議員紹介  
各都会から選出された代議員が紹介された（平成23-26年  
度代議員名簿）。  
Ⅴ. 理事・監事紹介  
Ⅵ. 議事

1. 平成23年度事業報告  
平成23年度において以下の事業が行われたことが報告された。
- ⅰ) 事業（看護専門学校・小島）
- 1) 部会・周年記念同窓会への支援事業
  - ① 医学部4年生
  - ② 医学部11年生
  - ③ 看護専門学校1年生
  - ④ 医療科学部臨床検査学科17年生
  - ⑤ 医学部3年生
  - ⑥ 臨床検査科学学生参加の学術大会に於ける同窓生親睦会
- 2) 学会並びに学術講演会の支援
- ① 第63回日本気管食道科学会総会並びに学術講演会
  - ② 第14回日本看護医療学会学術集会
  - ③ 第7回日本臨床検査教育学会学術大会
- 3) 愛知県私立大学同窓会連合会の会員継続
- 4) 藤田学園創立50周年記念事業への寄付
- 5) いこいの広場コンサート後援
- 6) 学園キャリア支援課とタイアップしての求人・求職斡旋事業
- 7) 機関誌「あけぼの杉」の発行
- 8) 住所不明者の調査及び「13藤田学園同窓会誌」発行  
引当金の積立
- 9) 個人情報漏洩保険賠償保険継続
- 10) FUJITA FESTIVAL 2011 協賛
- 11) 同窓会奨学金の充実と貸与事業
- 12) 獨創一理析念館運営協力
- 13) 同窓会館維持運営
- 14) 同窓会ホームページの管理

- Ⅱ. 機関誌（短大・内藤）
- 平成23年度のニュースを編集し、さらに総会の議事録を掲載し、「機関誌 あけぼの杉」を11月下旬に発行・発送する予定であることが報告された。

- Ⅲ. 名簿（看護専門学校・坂）
- 現在、総会員数は26,571名、住所不明者は4,277名、物故者は188名であること、2013年に名簿を発刊するための準備を開始したことが報告された。株式会社サウトより、「名簿発行のお知らせ」と「掲載情報の調査・確認ハガキ」が、あけぼの杉と一緒に会員の手元に届くことが案内され、名簿発行事業への協力が依頼された。また、住所不明者の調査と、学内会員で住所移動があった場合の住所変更が依頼された。

- Ⅳ. 学術（医療科学部・浅田）
- 以下の本学関連の学会並びに学術講演会を支援したことが報告された。
- 1) 第63回日本気管食道科学会
  - 2) 第7回日本臨床検査教育学会学術大会
  - 3) 第14回看護医療学会学術集会
- また、「あけぼの杉」に4名の同窓生の活躍を掲載することが報告された。
- 4) 日本看護協会長賞を受賞した看護専門学校10年生の小島登美子先生
  - 5) 日本看護協会長賞を受賞した医療科学部看護学科11年生の桑原浩先生
  - 6) 金城大学教授に就任した医療科学部臨床検査学科14年生の森啓至先生
  - 7) 青年海外協力隊で活躍した短大衛生技術科34回生の臼井真知子先生

- Ⅴ. 奨学金（医学部・松井）
- 平成23年度は医学部6年生2名と同3年生3名が、それぞれ月額6万円を貸

与を受け、卒業生6名より返還が行われていることが報告された。  
また、奨学生として卒業し、東京医科歯科大学の板倉千絵子先生が「あけぼの杉」に寄稿したことが報告された。

2. 平成23年度決算報告（医療科学部・原田）
- 平成23年度藤田学園同窓会収支計算書、藤田学園同窓会奨学金基金収支計算書、藤田学園創立50周年同窓会記念事業基金収支計算書について会計報告が行われた。

3. 平成23年度監査報告（医療科学部・伊藤）
- 平成23年度 藤田学園同窓会収支計算書及び財産目録、平成23年度藤田学園同窓会奨学金基金収支計算書及び財産目録、平成23年度藤田学園創立50周年同窓会記念事業基金収支計算書及び財産目録について医学部・内藤監事と医療科学部・村田監事より監査報告が行われた。  
採決の結果、以上の平成23年度の事業及び決算が満場一致で承認された。

4. 同窓会定款と細則の改定
- i. 定款と細則において条・項・号の数字の統一
  - ii. 第37条を第6章計算に移動
  - iii. 附則で使用している「改正」を「改定」に統一
- 以上3項目について審議の結果、満場一致で承認された。平成24年10月20日より施行する。

5. 平成24年度事業計画案（医療科学部・丸田）
- 以下のように事業計画が提案された。
- i. 総会及び懇親会の開催
  - ii. 支部設立の支援
  - iii. 各都会活動・周年記念同窓会支援
  - iv. 本学関連の学会並びに学術講演会の支援
  - v. 各種事業の支援
  - 1) 愛知県私立大学同窓会連合会の会員継続
  - 2) 藤田学園創立50周年記念事業協賛寄付
  - 3) いこいの広場コンサート後援
  - 4) 在学生の国際交流など支援
  - vi. 機関誌「あけぼの杉」の発行
  - vii. 名簿管理と「13藤田学園同窓会誌」発行
  - viii. 同窓会奨学金の充実と貸与事業
  - ix. 藤田学園創立50周年同窓会記念事業基金積み立て
  - x. 獨創一理析念館運営協力
  - ix. 同窓会ホームページの管理
  - xii. 藤田学園創立50周年同窓会記念事業
  - 1) 藤田学園卒業生の動向調査
  - 2) テーマ別座談会の開催
  - 3) 同窓生の一言募集
  - 4) その他

6. 平成24年度予算案（医療科学部・原田）
- 平成24年度藤田学園同窓会収支予算案、藤田学園同窓会奨学金基金収支予算案、藤田学園創立50周年同窓会記念事業収支予算案が提案された。  
審議の結果、平成24年度の事業計画及び予算が満場一致で承認された。  
（平成24年度藤田学園同窓会収支予算、藤田学園同窓会奨学金基金収支予算、藤田学園創立50周年同窓会記念事業収支予算）

7. 藤田学園創立50周年同窓会記念事業計画案（医学部・近松）
- 平成24年度事業として予算が承認された「藤田学園創立50周年同窓会記念事業」について、詳細な内容が説明された。
- i. メインテーマ  
藤田学園創立から50年が経過する節目の時期にあたり、お世話になった母校と恩師に感謝の意を捧げ、今日の同窓生の活躍とともに喜ぶ。
  - ii. 記念誌「Our Voices（仮題）」の企画  
学園と共に発展の道りを歩んだ同窓生の視点でこの50年間を総括し、母校との関わりにおいての重要な事実や資料を後世に伝承する。
  - 1) 巻頭言
  - 2) 藤田学園同窓会の沿革
  - 3) 歴代会長挨拶
  - 4) 50年を振り返る座談会
  - 5) 同窓生の動向調査
  - 6) キャンパス散策
  - 7) 各都会同窓会沿革
  - 8) 各同窓会部会長挨拶
  - 9) 部会同窓会活動
  - 10) 同窓生の一言
  - 11) 索引
  - 12) 編集後記
  - iii. 講演会の企画  
藤田学園同窓会と各都会の50年間の歩みを報告  
平成26年10月11日（土）16：00～18：00  
ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋5F ローズルーム  
恩師記念パーティ「藤田学園創立50周年 感謝の集い」の企画  
恩師に近況を報告し謝意を表す。同窓生同士の旧知を温め交流を深める。
- 平成26年10月11日（土）18：00～20：00  
ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋7F ザ・グランコート  
Ⅴ. 「13藤田学園同窓会誌」の発行  
50周年記念事業の一環として「13藤田学園同窓会機関誌（名簿）」を平成25年8月に発刊する。

8. 質疑応答
- i. 会費未納者への対応について、平成25年度入学生より学園による委託徴収が実施されることが報告された。
  - ii. 周年記念同窓会の支援について、卒後10周年、20周年、25周年、30周年、40周年、50周年の記念同窓会に対し、参加者一人当たり1,000円を目安として、支援されることが案内された。

9. 議長解任
10. 閉会の辞（医学部・松山）

引き続き理事長、大学長等多数の恩師の臨席の元、懇親会が行われた。

### 一般社団法人藤田学園同窓会 定款

#### 第1章 総 則

- (名 称)  
第1条 当法人は、一般社団法人藤田学園同窓会 と称する。  
(目 的)  
第2条 当法人は、学園創設者藤田啓介総長の建学の理念に基づき、会員相互の親睦を図り、医学・医療に従事する会員の教育と資質向上に寄与し、かつ総合医療教育機関である学校法人藤田学園の発展に貢献することを目

- 的とする。  
2. 当法人は、前項の目的を達成するため次の事業を行う。  
(1) 会員相互の親睦や扶助に関する事業  
(2) 機関誌、会員名簿に関する事業  
(3) 医学・医療に関する研修会及び研究会等に関する事業  
(4) 奨学金の貸与及び研究費の授与に関する事業  
(5) 学校法人藤田学園の後援に関する事業  
(6) その他当法人の目的を達成するために必要な事業

- (主たる事務所の所在地)  
第3条 当法人は、主たる事務所を愛知県豊明市香掛町田楽ケ窪1番地98に置く。

- (公告方法)  
第4条 当法人の公告は、電子公告の方法により行う。  
2. 当法人の公告は、電子公告の方法による公告をすることができない事故その他やむを得ない事情が生じた場合には、官報に掲載してする。

- (機 関)  
第5条 当法人は、当法人の機関として社員総会及び理事以外に理事会及び監事を置く。

#### 第2章 社員及び会員

- (社員の資格)  
第6条 当法人の構成員は次のとおりとし、代議員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「法人法」という。）第1条第1項第5号等に規定する社員とする。  
(1) 社 員 本定款の規定に基づき会員の中から選出された者  
(2) 会 員 学校法人藤田学園が設置した各教育機関の卒業生  
(3) 準会員 学校法人藤田学園が設置した各教育機関の在学生  
(代議員の選出)  
第7条 代議員（「社員」以下同じ）は、当法人の下記各都会において会員の中から選出する。

#### 記

- (1) 一般社団法人藤医会（藤田保健衛生大学医学部同窓会）
  - (2) 藤田保健衛生大学医療科学部同窓会
  - (3) 藤田保健衛生大学短期大学同窓会
  - (4) 藤田保健衛生大学看護専門学校同窓会
  - (5) 藤田学園医学技術専門学校同窓会
  - (6) 藤田コンピュータ専門学校同窓会
  - (7) 藤田保健衛生大学リハビリテーション専門学校同窓会
2. 前項の選出においては、会員は、等しく選出権及び被選出権を有し、理事及び理事会は、代議員を選出する権限を有しない。代議員の選出を行うために必要な細則は各都会において定める。
3. 各都会で選出する代議員の数は、部会の会員数が1000名までの部会では2名とし、500名を超える毎に1名を追加する。
4. 代議員選出は、4年に1度、8月に実施するものとする。

- (代議員の任期)  
第8条 代議員の任期は、選出後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。ただし、任期満了後においても後任者が選出されるまではその職務を行わなければならない。  
2. 代議員が社員総会決議取消しの訴え（法人法第266条第1項）、解散の訴え（法人法第268条）、責任追及の訴え（法人法第278条）及び役員解任の訴え（法人法第284条）を提起している場合（法人法第278条第1項に規定する訴えの提起の請求をしている場合を含む。）には、前項本文の規定にかかわらず、当該訴訟が終結するまでの間、当該代議員はなお法人法の社員たる地位を有するものとする。ただし、当該代議員は、役員選任及び解任並びに定款変更についての議決権は有しないものとする。  
3. 任期満了前に退任した代議員の補欠として選出された者の任期は、前任者の任期の残存期間と同一とする。  
4. 増員により選出された代議員の任期は、他の代議員の任期の残存期間と同一とする。  
(補欠代議員の予選)  
第9条 代議員が欠けた場合又は代議員の員数を欠くこととなるときに備えてあらかじめ補欠の代議員を選出することができる。この場合の代議員の任期は、前任者の任期の残存期間と同一とする。  
2. 補欠の代議員を予選する場合には、次に掲げる事項も併せて決定しなければならない。  
(1) 当該候補者が補欠の代議員である旨  
(2) 当該候補者を1人又は2人以上の特定の代議員の補欠の代議員として選出するときは、その旨及び特定の代議員の氏名  
(3) 同一の代議員（2人以上の代議員の補欠として選出した場合）にあつては、当該2人以上の代議員につき2人以上の補欠の代議員を選出するときは、当該補欠の代議員相互間の優先順位  
3. 第1項の補欠代議員の予選に係る決議が効力を有する期間は、当該決議後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。

- (会員の権利)  
第10条 社員でない会員は、法人法に規定された次に掲げる社員の権利を、社員と同様に当法人に対して行使することができる。  
(1) 法人法第14条第2項に定める権利（定款の閲覧等）  
(2) 法人法第32条第2項に定める権利（社員名簿の閲覧等）  
(3) 法人法第50条第6項に定める権利（社員の代理権証明書等）の閲覧等）  
(4) 法人法第52条第5項に定める権利（電磁的方法による議決権行使記録の閲覧等）  
(5) 法人法第57条第4項に定める権利（社員総会の議事録の閲覧等）  
(6) 法人法第129条第3項に定める権利（計算書類等の閲覧等）  
(7) 法人法第229条第2項に定める権利（清算法人の貸借対照表等の閲覧等）  
(8) 法人法第246条第3項、第250条第3項及び第256条第3項に定める権利（合併契約等の閲覧等）

- (入 会)  
第11条 当法人の成立後会員となるには、当法人所定の入会申込書により入会の申込をし、理事会の承認を得なければならない。  
(経費の支払義務)  
第12条 会員（社員を含む）は、社員総会の定める額の会費を支払わなければならない。本条の会費は、法人法第27条に規定する経費とする。  
(社員名簿)  
第13条 当法人は、会員又は社員の氏名及び住所を記載した「会員・社員名簿」を作成し、当法人の主たる事務所に備え置くものとする。「会員・社員名簿」をもって法人法第31条に規定する社員名簿とする。

2. 当法人の会員及び社員に対する通知又は催告は、「会員・社員名簿」に記載した住所、又は会員又は社員が当法人に通知した居所にあてて行うものとする。



(退会又は退社)

第14条 会員及び社員は、次に掲げる事由によって退会又は退社する。

(1) 会員又は社員本人の退会又は退社の申し出。ただし、退会又は退社の申し出は、1か月前にするものとするが、やむを得ない事由があるときは、いつでも退会又は退社することができる。なお、この場合、既に支払った会費の払戻しはしない。

(2) 死亡

(3) 総社員の同意

(4) 除名

2. 会員又は社員の除名は、当法人の名誉を毀損し、その品位を汚損する等正当な事由があるときに限り、社員総会の決議によってすることができる。この場合は、法人法第30条及び第49条第2項第1号の定めるところによるものとする。

### 第3章 社員総会

(招 集)

第15条 当法人の定時社員総会は、毎事業年度末日の翌日から2か月以内に招集し、臨時社員総会は、必要に応じて招集する。社員総会は、社員によって構成する。

2. 社員総会は、法令に別段の定めがある場合を除くほか、理事会の決議に基づき会長がこれを招集する。会長に事故若しくは支障があるときは、会長があらかじめ理事会の承認を得て定めた順位に従い副会長がこれを招集する。

3. 社員総会を招集するには、会日より1週間前までに、社員に対して書面で招集通知を発するものとする。

(議 長)

第16条 社員総会の議長は、会長がこれに当たる。ただし、会長に事故若しくは支障があるときは、会長があらかじめ理事会の承認を得て定めた順位に従い副会長がこれに代わる。

(決議の方法)

第17条 社員総会の決議は、法令又は定款に別段の定めがある場合を除き、出席した社員の議決権の過半数をもって行う。

(議決権の代理行使)

第18条 社員は、当該社員が所属する部会の会員を代理人として、議決権を行使することができる。ただし、この場合には、社員総会ごとに代理権を証する書面を提出しなければならない。

(社員総会議事録)

第19条 社員総会の議事については、法令に定める事項を記載した議事録を作成し、議長及び出席理事が署名又は記名押印して10日間当法人の主たる事務所に備え置くものとする。

### 第4章 理事、監事及び代表理事

(理事の員数)

第20条 当法人の理事の員数は、3名以上30名以内とする。

(監事の員数)

第21条 当法人の監事の員数は、2名以内とする。

(理事及び監事の資格)

第22条 当法人の理事及び監事は、当法人の社員の中から選任する。

(理事及び監事の選任の方法)

第23条 当法人の理事及び監事の選任は、社員総会において出席した当該社員の議決権の過半数をもって行う。

(代表理事)

第24条 当法人に会長1人、副会長2人、顧問若干名を置き、それぞれ理事会において理事の過半数をもって選定する。

2. 会長は、法人法上代表理事とする。

3. 会長は、当法人を代表し事務を総理する。

4. 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、会長があらかじめ理事会の承認を得て定めた順位に従いその職務を代行し、会長が欠けたときはその職務を行う。

(理事及び監事の任期)

第25条 理事の任期は選任後2年以内、監事の任期は選任後4年以内にそれぞれ終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。ただし、再任を妨げない。

2. 任期満了前に退任した理事又は監事の補欠として選任された者の任期は、前任者の任期の残存期間と同一とする。

3. 増員により選任された理事の任期は、他の在任理事の任期の残存期間と同一とする。

### 第5章 理事会

(招 集)

第26条 理事会は、会長がこれを招集し、会日の1週間前までに各理事及び各監事に対して招集の通知を発するものとする。ただし、緊急の場合にはこれを短縮することができる。

2. 会長に事故若しくは支障があるときは、会長があらかじめ理事会の承認を得て定めた順位に従い副会長がこれに代わるものとする。

(招集手続の省略)

第27条 理事会は、理事及び監事の全員の同意があるときは、招集手続を経ずに開催することができる。

(議 長)

第28条 理事会の議長は、会長がこれに当たる。ただし、会長に事故若しくは支障があるときは、会長があらかじめ理事会の承認を得て定めた順位に従い副会長がこれに代わるものとする。

(理事会の決議)

第29条 理事会の決議は、議決に加わることができる理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

(理事会の決議の省略)

第30条 理事が理事会の決議の目的である事項について提案をした場合において、当該提案につき議決に加わることができる理事の全員が書面により同意の意思表示をしたとき(監事が当該提案に異議を述べた場合を除く)は、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。

(職務の執行状況の報告)

第31条 会長、副会長及び常任理事は、毎事業年度に4か月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(理事会議事録)

第32条 理事会の議事については、法令に定める事項を記載した議事録を作成し、出席した代表理事(代表理事に事故若しくは支障があるときは出席理事)及び監事がこれに署名又は記名押印し、10日間主たる事務所に備え置くものとする。

### 第6章 計 算

(会 計)

第33条 当法人の事業年度は、毎年10月10日から翌年10月9日までとする。

2. 当法人は、剰余金の配当はしないものとする。

(計算書類等の定時社員総会への提出等)

第34条 代表理事は、毎事業年度、法人法第124条第1項の監査を受け、

かつ同条第3項の理事会の承認を受けた計算書類(貸借対照表及び損益計算書)及び事業報告書を定時社員総会に提出しなければならない。

2. 前項の場合、計算書類については社員総会の承認を受け、事業報告書については理事がその内容を定時社員総会に報告しなければならない。

(計算書類等の備置き)

第35条 当法人は、各事業年度に係る貸借対照表、損益計算書及び事業報告書並びにこれらの附属明細書(監事の監査報告書を含む。)を、定時社員総会の日の2週間前の日から5年間、主たる事務所に備え置くものとする。

(残余財産)

第36条 当法人が解散した場合には残余財産があるときは、学校法人藤田学園に帰属する。

(最初の事業年度)

第37条 当法人の最初の事業年度は、平成23年10月10日から平成24年10月9日までとする。

### 第7章 附 則

(定款に定めのない事項)

第38条 この定款に定めのない事項については、すべて法人法その他の法令の定めるところによる。

1. 本定款は、平成22年10月23日承認、平成23年10月10日から施行する。  
2. 平成23年10月22日一部改定  
3. 平成24年10月20日一部改定

### 一般社団法人 藤田学園同窓会 定款細則

平成23年10月22日 承認、施行

(目 的)

第1条 この細則は一般社団法人藤田学園同窓会定款により藤田学園同窓会活動を進める上で必要な事項を定めるものである。

### 第1章 事業

(事 業)

第2条 当法人定款第2条(目的)を達成するために、次のような事業を行う。

- (1) 会員相互の親睦や扶助に関すること
- (2) 機関誌、会員名簿に関する事業
- (3) 研修会及び研究会の開催に関すること
- (4) 研究費の授与に関すること
- (5) 奨学金の貸与に関すること
- (6) 会員の就職活動支援に関すること
- (7) 学校法人藤田学園の後援に関すること
- (8) その他、定款に掲げる事業に付帯又は関連する事業に関すること

2. 各事業は、各担当委員会が適切に企画・調査し、理事会が承認し、実行するものとする。

(親睦・扶助)

第3条 会員相互の親睦や扶助に関する支援を行う。

(1) 医療系職能団体の全国大会における本同窓会会員の親睦会への支援

- (2) 支部設立のための資金援助及び支部会員の名簿の提供
- (3) 会員相互の親睦に必要な支援
- (4) 1件当たりの支援上限額は10万円とする。

(機関誌)

第4条 機関誌は、機関誌委員会が作成し、理事会において承認する。

2. 機関誌名を「あけぼの杉」とし、原則として年1回刊行する。

(会員名簿)

第5条 会員名簿は名簿委員会が調査し、「藤田学園同窓会個人情報保護規程」に則り、適正に管理する。

2. 会員名簿は、原則として5年に1回刊行する。

(学 術)

第6条 研修会及び研究会の開催に関する支援を行う。

(1) 本法人は学術委員会を中心に会員のニーズを調査し、必要に応じて研修会及び研究会を開催する。また、会員または本学園教職員が開催する研修会及び研究会、又はそれに類する公益性の高い事業に対し支援を行う。

(2) 支援対象の研修会及び研究会は国際的及び全国的規模の会とし、参加人数などを勘案するものとする。  
(3) 公益性の高い事業とは、その事業を開催することにより本学園の名声を著しく高め、本学園の関係者に対し公益を与え得る事業とする。  
(4) 1件当たりの支援上限額は10万円とする。

(研究補助)

第7条 会員の研究に対し支援を行う。

- (1) 会員より研究費の支援願書が提出された場合、学術委員会の

調査報告に基づき、理事会において審議し、会長の承認を得るものとする。

(2) 支援対象の研究は、筆頭著者として国際誌及び全国誌に掲載された論文に限る。

(3) 1件当たりの授与上限額は10万円とする。

(奨学金)

第8条 学生会員に対し奨学金を貸与する。

- (1) 当法人の奨学金の貸与を受けている学生会員を奨学生という。
- (2) 奨学生の支援については「藤田学園同窓会奨学金貸与規程」

による。

(3) 貸与金額の上限は1ヶ月当たり6万円とする。但し、理事会において認めた場合はその限りではない。

(4) 毎年9月1日から9月10日まで奨学生の募集を行う。ただし、奨学金委員長が緊急性があると認めた場合はこの限りではない。

(就職活動支援)

第9条 当法人では学校法人藤田学園キャリア支援課と連携し、本学学生と卒業生(本法人会員)を対象に就職活動支援を行う。

(学園後援)

第10条 学校法人藤田学園の教育、研究、診療に関する後援を行う。

(その他の事業)

第11条 その他当法人の目的を達成するために必要な事業を行う。

(報告義務)

第12条 当法人から支援又は授与を受けた個人又は団体は、その事業の決算書を本法人宛に提出し、収支を報告するものとする。ただし、同窓会奨学生はこの限りではない。

### 第2章 理事会

(理事会)

第13条 理事会は、理事の過半数の出席をもって成立する。

2. ただし、理事は委任状をもって出席に替えることができる。

(特別委員会)

第14条 理事会には、次の特別委員会を置くことができる。

- (1) 総務委員会
- (2) 事業委員会
- (3) 機関誌委員会
- (4) 名簿委員会
- (5) 学術委員会
- (6) 支部委員会
- (7) 奨学金委員会

2. その他、必要に応じて特別委員会を設ける。

3. 理事会には、顧問、監事、特別委員会委員が陪席することができる。

### 第3章 支部

(支 部)

第15条 支部は、原則として都道府県単位で設置するものとする。

2. 名称は、「藤田学園同窓会○○支部」とする。

3. 支部を設立しようとする場合は、支部長、その他役員及び賛同者(支部会員)の名簿、支部会則、趣意書などの書類をもって、会長宛に申請する。

4. 支部設立には、少なくとも5名の会員の賛同者(支部会員)を必要とする。

### 第4章 会費

(会 費)

第16条 当法人の構成員は、各部会入会時に 金30,000円を納めるものとする。

(会費の返還)

第17条 学生会員が中途退学する場合、求めに応じて納入金を返還する。

2. その他の理由による納入金返還要求には応じない。

### 第5章 細則の制定・改定

(制定・改定)

第18条 この細則の制定・改定は、社員総会で承認を受けなければならない。

### 附 則

1. この細則は平成23年10月22日承認、施行する。  
2. 平成16年10月10日施行の藤田学園同窓会細則を廃止する。  
3. 平成20年10月25日施行の藤田学園同窓会が行う各種支援事業に関する内規を廃止する。  
4. 平成24年10月20日一部改定



# 2013年度 入学試験スケジュール

## 藤田保健衛生大学 大学院

研究科名称(定員)	試験区分	募集人員	試験日	合格発表日	試験会場
医学研究科 (68名)	前期募集	68名	9月18日(火)	9月28日(金)	本学
	後期募集		2月19日(火)	2月26日(火)	本学
保健学研究科 (30名)	第一次募集	30名	9月 3日(月)	9月 6日(木)	本学
	第二次募集		2月25日(月)	2月28日(木)	本学

## 藤田保健衛生大学

学部・学科名称(定員)	試験区分	募集人員	試験日	合格発表日	試験会場
医学部 医学科 (110名)	推薦入試 大学課程履修者 自己推薦	20名 上記の内 約5名	11月11日(日)	11月16日(金)	本学
	一般入試(前期)	60名	学科: 1月27日(日) 面接: 2月 6日(水)	学科: 2月 1日(金) 面接: 2月12日(火)	本学・東京・大阪・福岡 本学
	一般入試(後期)	25名	学科: 3月 3日(日) 面接: 3月12日(火)	学科: 3月 8日(金) 面接: 3月15日(金)	本学・東京 本学
	センター試験利用入試	5名	一次: センター試験 二次: 2月22日(金)	2月18日(月) 3月 1日(金)	本学
医療科学部	推薦入試	15名	11月17日(土)	11月22日(木)	本学
	一般前期入試	61名	1月30日(水)	2月 6日(水)	本学・東京・金沢・浜松・四日市・大阪・福岡
	一般後期入試	10名	3月 4日(月)	3月 8日(金)	本学
	センター試験利用入試	7名	センター試験	2月18日(月)	
	センター試験利用入試	2名	センター試験	3月21日(木)	
	推薦入試	30名	11月17日(土)	11月22日(木)	本学
	指定校推薦	約5名			
	社会人自己推薦	約5名			
	一般前期入試	55名			
	一般後期入試	7名	1月30日(水)	2月 6日(水)	名古屋・東京・金沢・浜松・四日市・大阪・福岡
	センター試験利用入試	5名	3月 4日(月)	3月 8日(金)	本学
	センター試験利用入試	5名	センター試験	2月18日(月)	
	センター試験利用入試	3名	センター試験	3月21日(木)	
	推薦入試	7名	11月17日(土)	11月22日(木)	本学
	一般前期入試	30名	1月30日(水)	2月 6日(水)	本学・東京・金沢・浜松・四日市・大阪・福岡
	一般後期入試	5名	3月 4日(月)	3月 8日(金)	本学
	センター試験利用入試	5名	センター試験	2月18日(月)	
	センター試験利用入試	3名	センター試験	3月21日(木)	
	推薦入試	12名	11月17日(土)	11月22日(木)	本学
	一般前期入試	23名	1月30日(水)	2月 6日(水)	本学・東京・金沢・浜松・四日市・大阪・福岡
	一般後期入試	4名	3月 4日(月)	3月 8日(金)	本学
	センター試験利用入試	4名	センター試験	2月18日(月)	
	センター試験利用入試	2名	センター試験	3月21日(木)	
	推薦入試	9名	11月17日(土)	11月22日(木)	本学
	一般前期入試	18名	1月30日(水)	2月 6日(水)	本学・東京・金沢・浜松・四日市・大阪・福岡
	一般後期入試	3名	3月 4日(月)	3月 8日(金)	本学
	センター試験利用入試	3名	センター試験	2月18日(月)	
	センター試験利用入試	2名	センター試験	3月21日(木)	
	推薦入試	8名	11月17日(土)	11月22日(木)	本学
	一般前期入試	20名	1月30日(水)	2月 6日(水)	本学・東京・金沢・浜松・四日市・大阪・福岡
	一般後期入試	5名	3月 4日(月)	3月 8日(金)	本学
	センター試験利用入試	5名	センター試験	2月18日(月)	
	センター試験利用入試	2名	センター試験	3月21日(木)	
	推薦入試	12名	11月17日(土)	11月22日(木)	本学
	一般前期入試	10名	1月30日(水)	2月 6日(水)	本学・東京・金沢・浜松・四日市・大阪・福岡
	一般後期入試	2名	3月 4日(月)	3月 8日(金)	本学
	センター試験利用入試	4名	センター試験	2月18日(月)	
	センター試験利用入試	2名	センター試験	3月21日(木)	

## 藤田保健衛生大学 医療科学部 3 年次編入学

学科名称(定員)	編入年次	試験区分	募集人員	試験日	合格発表日	試験会場
臨床検査学科(2名)	3年次	編入学入試	2名	10月 6日(土)	10月11日(木)	本学
放射線学科(3名)	3年次	編入学入試	3名	10月 6日(土)	10月11日(木)	本学
臨床工学科(2名)	3年次	編入学入試	2名	10月 6日(土)	10月11日(木)	本学

## 藤田保健衛生大学 看護専門学校

学科名称(定員)	試験区分	募集人員	試験日	合格発表日	試験会場
看護科 (40名)	推薦入試	約15名	12月 1日(土)	12月 5日(水)	本校
	一般入試	約25名	2月 2日(土)	2月 6日(水)	本校

問い合わせ先: 藤田保健衛生大学 広報部 〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98  
TEL 0562-93-2490 FAX 0562-93-4597 URL <http://www.fujita-hu.ac.jp/>